

宮崎大学医学部整形外科

# 同門会誌

第 22 号  
平成 23 年 5 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成22年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成22年4月10日 於 宮崎観光ホテル



平成23年度 宮崎大学医学部整形外科同門会 平成22年12月4日 於 宮崎観光ホテル



## ご挨拶

河野 雅行

皆様におかれましては、お変わり無くお過ごし  
の事と推察いたします。

昨年12月31日に同門の岡田光司先生が急  
逝されました。ご存知の様に岡田先生は宮崎大  
学（旧宮崎医科大学）医学部整形外科創設以来  
のメンバーで同門会の重鎮でもありました。開  
業されてからは地域医療や介護に邁進される一  
方で医師会の様々な要職をも兼ねていらっしや  
いました。個人的にも昭和51年頃、県立延岡  
病院勤務以来の付き合いをさせていただきました。  
余りにも早いご不幸で御遺族の悲しみは勿  
論ですが、我々同門にとりまして大きな痛手  
でございます。更には社会的にも余人を持って  
替えるには困難な程の大きな存在でもありまし  
た。先生を失った損失は大ですが、御遺族には  
一刻も早く立ち直っていただきます様に祈念い  
たします。御冥福をお祈りします。

社会情勢を眺めますと、政治の混迷や経済の  
不景気等相変わらずのドラマが繰り返されてい  
ます。それに呼応するかのように昨年から自然・  
人為災害が多発しており口蹄疫や鳥インフルエ  
ンザの蔓延から今年より霧島・新燃岳噴火と続  
き、我が県ばかりの不幸を嘆いていましたが、  
3月11日、東日本で巨大地震と津波による大  
惨事に加えて原発事故と言う深刻な災害が発生

しました。被災地の状況を報道で見るとにつけて  
も、医療提供体制は如何にと、駆け付けたい気  
持ちで切歯扼腕しているのは私ばかりでは無い  
と思います。見るも無残な被災地に於いてボラ  
ンティア活動中の人々の姿には頭の下る思いが  
します。日本医師会では独自に1000チーム  
以上のJ-MATを編成し被災地に送り込んで  
います。宮崎県医師会でも20チームを編成し、  
既に活動を開始しております。我々もこの非常  
時には何らかの協力を惜しんではならないと考  
えます。一日も早い復興を願わずにはおれませ  
ん。其れに付けても政治、行政、原発事故の当  
事者である東電の対応には全く失望させられま  
す。まさに国難と言うべき大惨事に、普段の言  
動・パフォーマンスの大きな政治家のうち、本  
当に国を憂れている者は居ないのか、と言いた  
い様な体たらくです。宮崎県でも日向灘には何  
時発生しても可笑しくない巨大地震の温床が有  
ると言われています。此の度の災害を例えにす  
るのは不謹慎の謗りを受けるかも知れませんが、  
我々も今回の不幸を轍として、常時から真剣に  
対策を立てておく必要があります。

世界的には一般化したインターネット等通信  
手段の威力により大きなうねりが始まっていま  
す。既に政治の形態が変わってしまった国も有

ります。今後もこの流れは留まる事は無いと思われます。イデオロギー、人生観、国家、社会のあり方等々までが変革する前触れかも知れません。今後の数年間は眼の離せない情勢が続くことでしょう。

一方、同門会活動は順調に経過しております。昨年は5名の先生方に新規入会をしていただきました。2名の先生方が同門会奨励賞を受けられ、1名の先生が留学支援を受けられました。同門会活動は“皆様方の御協力が有ってこそ”

です。今後共積極的な御参加を宜しく御願いたします。更に、教室に於かれては帖佐教授の元に着々と業績を挙げられております。教室員の先生方が研究・教育は勿論、地域医療に活躍されている姿は頼もしい限りです。

様々な困難な事件が連続して発生しており、社会の変革をも思わせる状況にありますが、皆様におかれましては御自愛の上、日常診療・業務・研究に励んでいただきますよう祈念いたします。



## 新入教室員歓迎

帖 佐 悦 男

昨年度は、宮崎県にとっても日本や世界にとっても信じられない年であったと思います。宮崎県では、口蹄疫や鳥インフルエンザの蔓延、新燃岳の噴火があり、県外では未曾有の東北関東大震災（東日本大震災）が発生しました。被害に遭われました方々へ心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い終息、復興とこれ以上被害が拡大しないことを祈念致します。また、長年にわたり同門会の幹事をして頂きました岡田光司先生が急逝されました。あらためましてこれまでの教室に対しますご厚情に深く感謝するとともに、ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

さて、新入教室員を迎える桜の満開の時期は、何度あっても大変嬉しいものです。新年度にあたり巻頭言を述べます。大学では、新執行部が誕生し新たな改革が進んでいます。本邦で初めての医獣医融合型の大学院が開講したり、様々な施設・機関と協定を結んでいます。民間企業との協定を含め整形外科の役割も多くなりますので、ご協力よろしくお願い致します。医学部に関しましては、ドクターヘリの導入をはじめ救命救急センターが開設され、より一層の救急

医療体制の充実が期待されます。医学部附属病院は、外来新棟が昨年オープンし、病院全体の改築が開始されています。リハビリテーション部は、早期リハの充実や病診連携が可能になってきています。これから2年間は病棟改修という大がかりな工事をしながら診療をしますので、患者さんには不便をかけると思いますが、改修後に最新の医療が受けられる環境になることを待ち望んでいます。

教室に関しまして、新入教室員は、2名の新卒後臨床研修医を迎えることができ嬉しい知らせです。レジデントの先生には、希望に満ち溢れた新たな出発点となりましたので、夢と目標をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつつスペシャリティを考えもちろん研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用してください。今後も多くの教室員が増えますよう教室員のみならず同門の先生方のご協力もよろしくお願い致します。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院

へと集中したため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。私たちも同様に苦境に立たされていますが、幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援によりなんとか乗り切ることができています。ご協力頂きました先生方に感謝致します。

本年度は「ロコモティブシンドローム (locomotive syndrome) : 運動器症候群 : ロコモと略す」について復習します。日本整形外科学会が、運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を表す新しい言葉として「ロコモ」を提唱し、自分で気付くためのロコモチェック (ロコモーションチェック) とロコモ対策としての運動を作成しています。一方、運動器不安定症は保険収載された疾患概念で、運動機能低下をきたす疾患が存在、日常生活自立度判定がランクJまたはA、運動機能評価テストの項目を満たした場合診断できます。国も運

動器疾患にかなり注目するようになってきましたので是非、ロコモ予防をすすめましょう。大学では、治療や予防に加え様々な施設と運動やスポーツをとおしてロコモ予防を開始しています。この取り組みを、NHKのクローズアップ現代、きょうの健康や名医にQなどで紹介してもらいました。また、厚生労働科研で「ロコモコール」という新たな取り組みを全国の先生方と一緒に開始しますのでご協力お願い致します。また、日本運動器リハビリテーション学会が日本運動器科学会へ名称を変更していますのでご確認ください。

最後になりましたが、新たに入局していただいた先生方を加え、教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりしくお願い申し上げます。

# 目 次

ご 挨拶 .....	河 野 雅 行	
巻 頭 言		
新入教室員歓迎 .....	帖 佐 悦 男	
メインテーマ ～私の分岐点～		
私の分岐点 .....	大 崎 泰 .....	1
私の分岐点 .....	福 嶋 秀一郎 .....	3
私の分岐点		
2003年 田爪陽一朗君との別れ .....	松 元 征 徳 .....	5
『私の分岐点』 .....	谷 畠 満 .....	9
私の分岐点 .....	前 田 和 徳 .....	11
“分岐点”について考えること .....	江 夏 剛 .....	12
岡田先生追悼		
岡田光司先生を偲ぶ .....	田 島 直 也 .....	14
岡田光司先生を悼む .....	武 内 晴 明 .....	15
岡田光司先生と共に走って30年 .....	押 川 紘一郎 .....	17
医 局 長 挨 拶		
医局長挨拶 .....	矢 野 浩 明 .....	19
第5回宮崎整形外科医学奨励賞		
宮崎整形外科医学奨励賞をいただいて .....	川 野 彰 裕 .....	21



## 第5回宮崎整形外科

医学奨励賞を受賞して ..... 河原勝博 ..... 23

## 同門会・医局行事

H22年度医局旅行の報告 ..... 池尻洋史 ..... 25

日整会野球大会全国大会 ..... 安藤徹 ..... 27

西日本整形外科野球大会を終えて ..... 石田康行 ..... 28

第83回日本整形外科学会サッカー大会 ..... 森治樹 ..... 30

平成22年度同門会ゴルフ大会について ..... 森田信二 ..... 31

同門会テニス大会 ..... 尾田朋樹 ..... 32

第6回同門会麻雀大会 ..... 弓削孝雄 ..... 33

帖佐杯ゴルフ大会優勝について ..... 益山松三 ..... 34

## 新規開業

開業後の近況報告 ..... 後藤啓輔 ..... 36

## 新入会員紹介(賛助会員)

自己紹介 ..... 鶴田明土 ..... 37

貴同門会入会へのご挨拶 ..... 園田定彦 ..... 38

## 新入会員紹介(正会員)

自己紹介 ..... 李徳哲 ..... 39

自己紹介 ..... 山口洋一朗 ..... 39

同門会総会議事報告 ..... 40

教室同門の研究業績(2009年度) ..... 42

編集後記 ..... 61

## 私の分岐点



### 私の分岐点

大崎整形外科

大崎 泰

このテーマを頂いて、今までの私の分岐点なるものを思い返してみた。すると実にさまざまな分岐点があったことに気づかされたが、その中でも最大の〈私の分岐点〉はやはり、医学部に進むことを決意したことであろう。そのことに触れてみたい。

元々医者になるつもりはなかった。農家の長男として生まれ、幼少の頃から田植え・稲刈り・酪農といった農業中心の生活にどっぷり浸かって育ったので、将来は自然とそういった関係の仕事に携わっていくことになるのかな？と漠然と思っていたが、父親からはいつも〈勉強していい大学にいけ！〉と言うフレーズを耳にたこができる位言い聞かされていた。と言うのも私の父には、勉強したくてもできない境遇に甘んじざるを得なかった過去があるからだ。父は昭和3年、延岡市東海村の小作農家の三男、6人兄弟の末っ子として生まれた。当時の日本は軍国主義の真っ只中、好む好まざるに係わらず、男児はお国のために軍隊に行くのが当たり前の時代だったそうで、父も軍人だった二人の兄にない迷わず陸軍士官学校に進んだ。しかし、

終戦を迎えて世の中は一変。しかも跡取りだったはずの二人の兄が戦死したため、三男の父が実家の農家を継ぐことになったのである。元来勤勉だった父はそのこと（本来ならば大学に入り直して好きな勉強を思いっきりしたかったが叶わなかったこと）が余程悔しかったようで、息子の私には自分の分まで勉強してほしいと常々〈父は勉強したくてもできなかった。お前は何ぼでも好きなだけ勉強できるから幸せじゃ。〉と、夢を託すかのようにはっぱをかけていた。そんな教育熱心な父の影響で、高校は縁あって宮崎南高校に進学。よき友や恩師に出会い、あっと云う間に3年が過ぎ、そして大学受験。いよいよ今回本題の分岐点を迎えるのである。

その頃の私は、好きだったスポーツも2年生の秋に止め、特別理系のクラスでもっぱら勉学に専念、一応成績は上位をキープしていた。ただ、将来何になりたいとか、どういった職種に就きたいとかの考え・意志といったものは全くなく、取り敢えず都会の大学に行って学生生活をenjoyしたい（こう書けば聞こえはいいが、本音は遊びたい！）と思っていた。そう考えた

とき、元々歴史、特に幕末史が好きだったし、何よりも一番の決め手は父の面目を保つ意味で京都の某国立大学・農学部は打って付けて、迷わず願書を書いた。しかし、運命とは皮肉なもので、たまたま担任の先生に進められて受けた自治医大（当時は防衛医大や自治医大は入試の腕試し・練習感覚で成績の良い生徒は受けさせられていた）に合格してしまったのである。受験科目が英語・数学・理科の3科目なので、理数系が得意な私には有利だったのだ。さあどうしたものか？と少し悩んだが、まさか受かるとは思ってもみなかったし、そもそも医学に縁も興味もないし、しかも大学は栃木の田舎にあるし・・・とそちらには消極的で、心は既に京都での甘い生活？に飛んでいた。ところが父の対応・変わり身は早かった！すぐさま親戚一同に医学部合格を知らせ、＜今からの時代は農業じゃ食うていけん、医者になれ！＞と包囲網を敷いたのである。それに入学金・授業料が無料というのも父達を後押しした。京都に行くとは孤軍奮闘したがこちらには勝ち目はなく、泣く泣く従わざるを得なかった。こうして私は最大の分岐点を通過した。情けないが、積極的選択ではな

かったのである。

あの時もう一つの方向へ進んでいたら当然今の私はない。まさに分岐点とはよく言ったものであるが、果たしてあの時の選択・今の私が正解だったかは判らない。もしかしたらそちらには、今とは比べようもない華やかな価値のある人生？が待っていたかもしれないからだ。そう考えると分岐点でどちらに進むか、試行錯誤・逡巡してどちらかに決断することもそれなりに大事なことだが、それよりも選んだ道をどのように歩くかの方がむしろ大切のように思う。何故ならその後の歩き方でその正否の如何が決まるからである。

これからもいくつかの分岐点に遭遇するであろうが、今まで通り、安易な方は選ばない！選んだ道でベストを尽くす、何故なら選んだことを後悔しないために！をモットーに積極的選択を続けたいと考えている。あのような消極的選択を繰り返さないために！

最後に、こうして私が同門会に加えて頂いたことも一つの分岐点通過の結果、同門の先生方には今後ともご指導並びに末永いお付き合いをお願い申し上げます。



## 私の分岐点

福嶋 秀一郎

「私の分岐点は？」そう問われると、まっすぐな一本道を歩いてきたような印象であったのですが、今振り返ると数多くの分かれ道が存在していました。おそらく今後も数多くの分かれ道が存在し、そのたびに意識的にそれとも無意識的に、あるいは運命的に進むべき道を選択していくのでしょう。今回与えられた「私の分岐点」というテーマで文章を書くにあたり、今までに歩んできた道を振りかえってみたいと思います。

宮崎市の田舎に生まれ、小学校は1学年1クラスの小さな学校。中学校は地元の中学に進学する予定でしたが、絶対受かるわけではないと思いながら附属中学校の試験を受けました。1学年1クラスの小学校から附属中の試験に合格するのは、10年に1人。4年前に私の友人の兄が合格したため、しばらく合格者は出ないだろうと言われていましたが、ふたを開ければ1次試験に4人も合格。私もその一人でしたが、もともと合格する予定もなく、友人と別れるのがつらかったため地元の中学に進学するつもりでした。ところが親が私の意見など聞かずに附属中学に入学願書を提出。私は泣きながら附属中へと進学したのです。その時は心の底から親を恨みもしましたが、今になってみると親の行

為にとても感謝をします。もし地元の中学に進学していたら今はどういう職につき、どういう生活をしているのか、そう考えると人生の中で最初の大きな分岐点だったと思います。

その後も高校入学、大学入学、整形外科への入局、何れも大きな分岐点であったと思います。そんな私が今回さらに大きな分岐点を迎えました。今年の3月で10年間御世話になった宮崎大学整形外科医局を退局し、岡田整形外科に就職しました。この選択は自分にとって良かったのだろうか・・・この文章を書きながらもふと考えてしまいます。ただ今回の場合は急な出来事であったため選択する余地もなかったのも事実ですが・・・

今年の1月1日に理事長職を引き継ぎました。思ったよりも医療法人が多くの上業を行っていて、戸惑うことも多々あります。医療だけでもわからないことが多いうえに、介護の事になるとまったくの初心者。出来るだけ講演会や研修会に出席して勉強をしているところです。

振り返ってみて今までの自分の人生の中での分岐点で、納得のいく選択をしてきたのではないかと考えています。今後も数多くの分岐点があると思いますが、その時に自分がbestな選択ができるのか、疑問であり不安であります。も

しあの時に別の選択をしておけば・・・そうはなりたくないものです。ただ大事なことは分岐点でどういう選択をしたのかではなく、その後でどういう取り組みをし、どういった成果をあげるかではないでしょうか。これまでの分岐点において納得のいく選択をしてきたと思えるの

は、今までの自分の人生に少なからず満足しているからだと思います。

今回退局し開業したことを将来の自分はどう思うのか、10年後にもう一度振り返ってみたいと思います。その時に今回の選択が良かったと思えるように、いまからより一層努力していきたいと思います。



## 私の分岐点

2003年9月 田爪陽一朗君との別れ

松元征徳

私の家にはどうしても捨てられない古い電話とMacがある。消せない留守電メッセージには大きな元気な声で「お疲れ様です。田爪です。今日の飲み会は7時ですので、6時半に先生のご自宅に迎えにきます。楽しみです。また、近くになったらお電話します」そしてMacのメールにはたくさんの波情報が送られている。「夕方の赤江の波は最高でした。朝一行くけど、マツゲンさん、どうですか？」

江南病院の医局には今日も田爪が座っていた椅子と机に若い後輩たちがいる。いくつかのカルテには彼の筆跡が残っている。そんな環境で時々感傷に浸りながら仕事をするのも慣れてきた。彼を思い出しながら、時には奮起し、時には後輩に無理するな早く帰れと気遣う自分がある。

私の分岐点というテーマで原稿を依頼された。分岐点とは過去をさかのぼって気づくものなのだろう。そこまで、生きてきただろうか？年若い時に思い出される人生の分岐点があるんだったら、間違った道を選んでいなかったと信じたいし、はたして正しい道の選択に悩むほどの未来があるかも疑問である。

ただ、今まで生かされてきて、私の人生の分岐点ではなく、人生のまっすぐな歩きかたを教

えてくれた田爪陽一朗君をしのんで原稿を書きたい。

(同門会誌19号、「2003年12月」の前編として執筆することをお許してください)

福岡大学病院のICUはたくさんのユニットに分かれていた。2003年8月、最も重症なユニットに、ま〜くんが搬送された。そして、その夜中、ハリーコールが鳴った。

「すべてのドクターは至急Aユニットに集まって下さい」「繰り返します・・・・・・」

「ま〜くんじゃないよね？」術後面会を待つ静香が拓哉を覗き込んだ。拓哉には脳出血の手術は無事終わったが、肺胞出血で抜管できないことを麻酔医から聞かされていた。

「ご家族のかたですか？至急こちらへ」慌てて走る看護師の後ろを追いかけた。Aユニットには、ま〜くんが闘っている、苦しんでいる現実があった。

挿管チューブから出血を吸引しボスミンを注入する。バックリングとともにチューブから血液が噴水状に飛び散る。白い白衣やシーツが血に染まる。拓哉は気絶しそうな母を抱きしめ、静香はま〜くんを抱きしめた。

「血圧を上げろ」「輸血を急げ」「血小板のデー

ターはまだか?」「50万です」「ウソだろ、もう一度再検しろ」、、、、、「50万で間違いありません」奇跡だった。血小板がその時、増えたのだ。

数日後、拓哉はまさに後ろ髪を引かれる思いで、福岡を後にした。宮崎の家にたどり着くと、拓哉の母親と娘アイちゃんは抱き合っただけで眠りについた。相当疲れてるんだな、悪かったと思いつつ、留守電メッセージのボタンを押した。「お疲れ様です。一郎です。今日の飲み会は7時ですので、6時半に先生のご自宅に迎えます。楽しみです。また、近くなったらお電話します」、、、、、「あいつ、元気だな」久しぶりに笑いがこみあげた。携帯にも一郎からの着信が入っていた。飲み会、すっかり、忘れていた。拓哉は自分とま〜くんを心配しながら気遣ってくれる一郎に感謝した。

2003年7月、拓哉と一郎は研修で東京に来ていた。酒を飲みながら、先に開業した一郎の話聞いていた。「手術はできないけど、仕事は楽しいですよ。結構忙しいし、整形だけじゃなくて、年寄りの全身管理や内科的なこともね」「リウマチの診断治療の進歩はめざましいから遅れないようにしないと」「困ったら、患者さん送りますけど、すぐ返してください。術後は自分でみたいから」「うちの温泉、百の湯は気持ちいいですよ。チケットあげますよ」一郎の話は尽きないくらい熱くpositiveだった。さらに、一郎の元気は2次会からと知っていた。一郎は多分楽しみにしてるだろうな〜と拓哉は思ったが、ま〜くんが血小板減少で県立病院に

入院していたため、さすがに気がすすまなかった。

「一郎、実は、、、、」と拓哉は正直に一郎に話した。「わかりました。もう少しここで飲んでから帰りましょう。子供さんが元気になったら、また来ましょうよ」一郎がまた、一段と明るい笑顔で、「治療は骨髄移植ですか。早くドナーが見つかるといいですね」

その後、一郎は福大卒の友人に連絡を取りながら、福岡での拓哉の職場、住居などを探してくれた。

2003年9月、「先輩、元気ですか?」一郎から電話が来た。「元気ではないな?実は10月から福岡に転勤じゃ」「そうですか?じゃ、送別会を盛大にしましょう」「いや、一郎、そうじゃなくて、、、」拓哉は、今起っているま〜くんのことを話した。「了解しました。家とか福大の近くじゃなくていいですか?脳出血ですか、けど、子供だから絶対回復しますよ。実は俺も頭痛があるんですよ。まっ、それはいいか。もしかしたら、息子さんの病気が僕の骨髄で助かるんだったらいいな〜」酔ってるのかな、一郎はまた、わけのわからんことを言っていると拓哉は思いながら、電話を切った。

ま〜くんは順調に回復した。リハビリ室で動かなかった右手足が少し動いただけで家族とスタッフみんなで喜んだ。顔のゆがみも少しずつ気にならなくなり、ま〜くんの笑顔が元気をくれた。「来週は引越すよ。静香、10月からは毎日看病に来るから、がんばろう」拓哉はそう言うと、大学病院を後に宮崎へ向かった。

拓哉は外科医である。外科医は体力勝負だと習った記憶があった。また、名医によると手術はアートだと講演していた。拓哉にとって、すでに手術はできない状態であった。出血が怖かった、体が宙に浮いて手が震え、やっと立っていたことがあった。外科医は精神的な平穏と強さが必要で、手術は坊さんの説教かもしれない。救われても救われなくてもすべて許しあえると思えてきた。そんな拓哉は江南病院ではどうやら、病人に見られ始めていた。「先生、転勤ですか？早く病気治して帰ってきてね」「はい、がんばって病気治して帰ってきます」無精ひげの拓哉は言い訳する元気もなく患者さんとの別れの挨拶を毎日続けた。

9月27日土曜日、拓哉は引越しの準備を夜中までした。すぐ帰ってくるかもしれない、いや、絶対治って、、、そんなことを考えながら荷物をまとめていた。一郎との飲み会は9月30日が予定だった。一郎達と最後に飲んで、笑って元気もらって出発しようと、それだけを楽しみにしながら、眠りに就いた。

日付が変わった28日の明け方前だった。突然、拓哉の携帯が鳴った。こんな時間に、、、「先生、どうしよう。一郎が息してなくて、、、一郎が、、、」一郎の彼女からだった。「何言ってるんだ、落ち着いて話してくれ」、、、拓哉の周りの空間だけ時間が止まった。体が動かない、何も聞こえない、何も見えない。どれぐらい止まっていただろう、それからスローモーションのように拓哉は動き出した。早く一郎のところに行ってあげたい、早くしなきゃ。星が消えた暗紫色の空を見ながら、拓哉は県立病院

へと向かった。

「一郎、嘘だろう。一郎、起きろよ。何してるんだ。嘘だろう、、、起きろ」ベットに寝ている一郎に抱きつき拓哉は何度も一郎の体を揺すった。一郎の目から涙がこぼれていた。大丈夫だって言ってるのか、すみませんって言ってるのか、無念だって言ってるのか、、、拓哉は手を強く握って、大丈夫だぞと頑張れを繰り返して一郎に伝えた。

ナースステーションで、脳外科の医師が、一郎の真っ白になった脳のCTを示して説明を始めた。一郎の家族、多くの友達そして拓哉。拓哉はCTを見ながら、ま〜くん、一郎、なんで脳のCTばかり見せられるんだ、もうたくさんだと思った。そして、拓哉は辛い話を続ける医師に「先生も外科医なら、手術して助けてください」と、その説明を中断させた。一瞬の静寂の後、「息子はドナー登録しています。骨髄だけでも使ってあげられないでしょうか？」一郎の父が重い口を開いた。

『もしかしたら、息子さんの病気が僕の骨髄で助かるんだったらいいな〜』一郎の話が拓哉の中でよみがえった。えっ、一郎はそこまでしてくれてたのか？拓哉はたまらなくなった、、、『俺も頭痛があるんですよ。まっ、それはいいか』なぜ、早く気づいてあげられなかったんだ。拓哉はどうしようもなく悔しかった、、、震えだした膝を押さえながら病院の外に出ると、黄色い朝陽が拓哉の目に飛び込んできた。涙でゆがんだ太陽は波のように揺れて拓哉の嗚咽と叫び声とともに大きく崩れていった。そして、一郎が天国に逝った。



一郎の葬儀、拓哉は一郎の好きだった煙草と酒を供えた。開業してから禁煙中だった一郎にはどうかとは思ったが、多分あつちで吸いたくなったらストレスだろうと気遣った。出棺まで、一郎のそばにいた。そんな拓哉のもとに一郎の父が挨拶にみえた。そして最後に「一郎から聞いています。先生、息子さんを大切にしてください」と声をかけていただいた。こんなに優しい男に一郎を育てられ、そして亡くされた胸中を思うと、その励ましの言葉に拓哉は返す言葉が見つからなかった。ただ救われた気持だった。拓哉の心を蔽っていた暗雲が薄れてきて、切れ間から光がやんわり注ぐのを感じた。友と接するとき一郎を思い、子と接するとき一郎の父を思う、そんな優しさと強さが込み上げてきた。

2003年11月、ま〜くんは不思議なくらい回復した。ま〜くんが大好きな場所がある。今日もアイちゃんがま〜くんの車椅子を押して、福大病院の裏庭に来た。そして、落ち葉拾いに夢中になった。綺麗な落ち葉を落とす木、なぜかま〜くんはここが好きだ。拓哉はやっと気付いた。そして、久しぶりに笑みがこぼれた。不思議な縁かもしれない、その木は一郎の福大卒業記念樹だった。その木の周りで、アイちゃんが落ち葉を小川に流して追いかけている。ま〜くんが落ち葉を空に投げて笑っている。

それから、7年が過ぎた。「パパ、友達の温泉に行くよ」息子が週末になるとせかしてくる。たまに夕方に行く百百の湯、我が家曰く、友達の温泉である。ある日、バケツでお湯をぶっかけ元気に掃除を始めるおじさんがいた。露天風呂に息子と避難する。

「パパ、バケツと椅子と整理しないとね、お掃除のおじさん大変だね」と息子。「お掃除のおじさんじゃないよ。立派なお医者さんだよ、パパの友達のお父さんだよ」、、、、

息子の夢はお医者さんと野球選手、そして最近はお風呂屋さんも加わった。

田爪、君はあまりに早くそれも突然に亡くなった。一緒に飲みたい一緒に笑いたいが君はいない。ただ君は不思議な男だ。みんなの心から離れずずっと残っている。俺は4月でまた歳をとる。君と出会ってから、俺の誕生日は、母が命がけでお産した日と考えるようになり親孝行の日となった。ありがとう。今年も桜が満開だ。散る桜、残る桜も散る桜。

君が散る順番を間違ったと後悔してるなら、そして、君が千の風となって自由に吹きわたっているんだったら、残されたみんなの生き様を見守ってくれ。そしていつか散るとき、君のことだから、三途の川に迎えに来てくれるだろう。君の作った鍋を囲みながらたくさん話そう、笑いながら、君がいなくなった俺の分岐点からの生き様を。

(酔いながら書きました。平井堅のアイシテルのPVをYou Tubeで見ながら、)



## 『私の分岐点』

たにはた整形外科

谷 畠 満

“私の分岐点”という題目はなかなか考えるのが難しかったのですが、現在の自分の人格を形成したのが高校時代と思われるので、無理やり自分の“花の高校生活”について述べたいと思います。

自分は東京生まれの東京育ちでいわゆる“シティーボーイ”ですが、すでに人生の半分以上を宮崎で過ごしているの、かなり怪しいところ。

親が転勤族だったため、中学～高校時代は埼玉県に住んでおりました。高校受験でギリギリで滑り込んだのが名門“熊谷(くまがや)高校”です。何が名門かというと、決して学力ではなく(現役大学進学率は30%)、わが母校の素晴らしいところは、その“自由な校風”にあります。ちなみに、男子校です。

まず制服が無いので、私服で登校します。近所の大学生に間違われる事も多く、朝からパチンコ屋に入ろうが、夕方から居酒屋に入ろうが何の抵抗もありません。夏の暑い時期は海パンで授業を受け、休み時間毎にプールに飛び込む様な日々でした。

授業もかなりシンプルで、いわゆる朝礼などが無くいきなり授業が始まり、帰りも授業が終わればそのまま解散になります。なので、担任

の先生に会うのは基本的に担任の受け持つ授業の時だけでした。

またユニークな授業のシステムがあり、朝その日のクラス当番が職員室に行くと、黒板に当日の臨時休講の予定が書かれています。先生達も何故か頻繁に授業を休むので、日によっては6時間のうち3時間が休講になる日もありました。そこで午前の休講になった時間に午後の授業をずらしてもらう様に担当の先生にお願いをすると、うまくいけば昼までに帰宅できる事になるのです。これでかなりの自由な時間が作れて、色々な社会勉強?が出来るというわけです。

ちなみに補習なども一切無かったので、夏休みなどは全く登校せずにアルバイトなどしてました。宮崎に来てから、宮崎の高校の授業や補習の多さにビックリしました。同じ県立高校なのにわが母校では約半分の授業しか受けてない事に気づき、損というよりは徳をした気分になりました。ついでに進路相談なども全くありませんでした。

自分はかなり(金正男いわく)自由人でしたので、よく授業をサボってました。冬は雪が降ると学校を休みましたし、朝の電車に間に合わなかった時はそのまま逆方向の電車に乗り、よく池袋のサンシャイン水族館にマンボウを見に行っ

たり、映画館巡りなどをしてました。しかし授業をサボっても学校から家には全く連絡が行かないので、出席日数が足りずに留年する人もいた様です。

母校は男子校でしたが、少し離れたところにわが校と対の様な熊谷女子高校（略して熊女）があり、そことの交流が高校時代の大事なライフワークでした。学校行事としてのクラス単位での交流会（45人対45人で総勢90人でのお見合いパーティー！）で友達になったり、それをつてにして毎月のように合コンもしてました。それでも飽きずに、授業をサボって熊女の体育祭に出かけて金網越しの応援？をするのですが、しまいには熊女の生徒会長の“熊高生は帰れ〜！”の号令が発動され、全生徒から“帰れ！帰れ！”と帰れコールを浴びせられた記憶が3年連続であります。とても良い思い出です。

この様な自由奔放な高校生活でしたが、自分は“自由に伴う責任”と“社会性”を学んだと

思ってますし（思い込み？）、なにより何でも話し合える男友達・女友達が出来て、20年以上経った今でも毎年集まって、近況報告や昔の思い出話しに花を咲かせています。

こんな3年間でしたので、成績は酷いものでした。古文漢文のテストで2点（学年最低点）を取った事もあります。なので、あたり前の様に浪人しました。

だいたい元々4年制（3年間は熊谷校舎ですが、4年目は駿台校舎・代々木校舎・河合校舎を選択可能）と聞いてましたので、何の抵抗もありませんでした。

そして4年目はうって変わって全く遊ばずに、1日中受験勉強してました。自分は元々薬学部志望だったのですが、予備校の生物の授業で知り合った女の子に、“谷島くんは薬学部に行くんだ〜。私は医学部に行くんだよ〜。”と言われ、“それなら俺も医学部に行くよ！”と急に進路変更をして現在に至るというわけです（おっと、これが“私の分岐点”だったか・・・）。



## 私の分岐点

前田和徳

今回私の分岐点というテーマにて原稿依頼がきて、おそらく私が今回大学を辞め、親子継承という形で清武に開業したからだともう考えました。確かに大きな分岐点の一つには間違い無いのですが、人生特に医者になる前の大きな分岐点が私にはありました。

まず幼少時代は、医者だけにはなりたくないと思う時期がありました。その考えが変化したのは中学、高校時代に父親の仕事を直接見て、父親が患者さまに感謝されているということが解ったときです。まず私が医師の道にはいろいろと決意した大きな分岐点でした。

次に医学部卒業の時に第2の分岐点がありました。当時は、脳神経外科か整形外科かのどちらかに入局するか悩んでいました。また整形外科入局するにも出身大学に入るか、宮崎大学に

入るかも悩んでいました。当時の医局長のおはなし、人格で最終的には宮崎大学整形外科教室入局を決めました。当時の医局長は、現在の帖佐教授でした。人には小さな分岐点は日々存在し、分岐点とは感じずに歩いていき、後になりいろいろな分岐点があったと感じるのではないかと思います。現在は開業という分岐点を通り毎日の診療を行っています。開業して、ある患者さまに頂いた言葉（真の診察するために栄華を捨てて、只一筋ダルマのように七転び八起き亀の甲より年の功、ずしりと重い責任を能力高く評価され梨園の花を咲かせます）を心に留め、分岐点を一つ一つゆっくりと歩いていけるように過ごしております。今後分岐点で立ち止まることが多々あると思いますが、その際は諸先輩、同僚、後輩、関係者の皆様のお力添えの程宜しくお願い申し上げます。



## “分岐点”について 考えること

江夏整形外科クリニック

江夏 剛

今回“私の分岐点”というテーマでの寄稿依頼を受けました。まだまだ過去を振り返って鑑みるほどの私ではありませんが、そのテーマで今考えることについて書かせていただきます。

今、分岐点として考えられることは山ほどあります。○自分の父母の子どもとして生をうけたこと、○高校2年のときに医師を志そうと決心したこと、○妻を娶り、いい家庭を築こうと思ったこと、○子どもを授かり、いい父親になろうと思ったこと、○いろいろな先生にお教えいただき、たくさん勉強したこと、○開業しようと決意したこと・・・・・・・・

今にして思えばどの機会も自分の現在に密接につながっています。ひとつの事象であるこれがあったからこうなったのではなく、これらがあったから今の自分は形成されていることに気づかされます。よく考えると一つ一つのことが分岐点になっているように思えます。

2差路4差路5差路など今までにさまざまな岐路で親、先生、妻などの助言もあり間違いなく進んできているように思えます。

過去を振り返ってさまざまなことが自分を形成しているのであれば、これから起こること、これから決断することが未来の自分の“分岐点”になることになります。分岐点に立ったとき道

を見失わないように道しるべとして理念や信念を大事にしています。

右か左かの分岐点に立ったとき自分の理念は、信念はという常に変わらない目標があれば分岐点での選択はおのずとそちらに向かうように選択できるような気がします。自分の力ではどうにもならないことが起こってそれが分岐点になるかもしれませんが、そのことで道を失わず理念信念に照らし合わせて右か左かを考えれば自然に右の道が、時には左の道が、ぼやけてでも見えてくるように思えます。またあるときはただ道なりに進んでいる場合もあるかもしれません。

江夏家には理念、信念について幼いときから暗記させられる“処世十訓”なるものが存在します。いつの時代も変わらない普遍のものを追及し、社会で生きていくための道しるべを子どもたちに伝えていこうという先代の意向があらわされています。幼いときにはただ暗唱していたものが、開業して、職員を雇用する立場に立っていろいろな決断をしなければならぬときに大変ありがたく感じられるようになりました。諸先輩方もお読みになられる同門会誌でえらそうにいろいろ書かせていただきましたが、

エッセイと思ってお読みいただけると幸いです。

最後に処世十訓をご紹介します。

処世十訓

江夏芳太郎

- 一、強く正しくにこやかに
- 一、上見て進め、下見て暮らせ
- 一、真剣の前に不能なし
- 一、論で負けても行ひで勝て
- 一、長所と交われれば悪友なし
- 一、話し上手より聞き上手
- 一、己に克って人には譲れ
- 一、急ぐな休むな怠るな
- 一、向上の一路に終点なし
- 一、仲良く働け笑って暮らせ

## 岡田先生追悼



### 岡田光司先生を偲ぶ

田 島 直 也

昨年12月30日、突然福岡麻里君から電話があり、光司先生が急変し、呼吸困難とのこと、とりあえず岡田整形にかけつけるも光司先生は既に意識はなく、香澄夫人の呼びかけにも応じない状態であった。以前から病氣療養中とはきいていたが、余りの急変にことばもなかった。翌31日は福岡秀一郎君から逝去されたとの事、自宅にかけつけると静かに安らかに眠っておられた。

“岡田君、何でこんなに早くいったのか、まだやり残したことがあったろうに”と心で叫んでみたが、ただ虚しく香澄夫人とお子さま達が静かについておられるのがよけい悲しみをそそのる感じであった。

1月1日お通夜、1月2日告別式とあわただしく過ぎていった。しかし今でも“先生”と声をかけられそうな気がする。私と岡田先生とは、私が昭和54年11月、宮崎に赴任した時からで30年以上の御厚誼を賜ったことになる。その頃は、大学病院も開院してまもなくで、木村教授を中心に医局員は数人しかいなく、外来、病棟、手術と多忙で、一日が終われば病院近くの“きはら”に行ったものであった。

岡田、武内の両君はことに木村体制を支える中核であった。やがて岡田君は二代目医局長（初代は渡辺雄君）に就任された。しかし、この頃

は病院からの発令がなく医局で決めていた。

その後、医局の野球チームを結成し、岡田先生も中心メンバーになってもらったが、院内対抗戦は連戦連敗の日々であった。

しかし、この頃は皆、和気あいあいで宮崎大整形創設期にはつらつとしていた岡田先生は印象深かった。

それから麻里君の入局、福岡君と麻里君の結婚、麻里先生の開業とあわただしく時は経っていった。

そして、再び私が岡田先生とかかわるようになったのは3年前、宮崎県整形外科医会会長になった時、岡田先生に副会長になってもらった事である。既に岡田先生は医師会でも、市郡整形外科医会長も歴任され、市郡医師会理事、保険審査員と実に多忙であったにもかかわらず、私は無理なお願いをして副会長を引き受けてもらった。しかし、1年前頃から体調の不調を訴えられ、病氣療養につとめられるも残念な結果になってしまった。最後に私も無理なお願いをしたのではないかと思うと申し訳ない気持ちでいっぱいである。

岡田光司先生本当に色々有り難う。

お世話になりました。安らかにお眠り下さい。

合掌



## 岡田光司先生を悼む

九州記念病院

院長 武内 晴明

平成22年12月31日は私の母の葬儀の翌日（母は平成22年12月28日に永眠しました）であったため葬儀でお世話になった方々への挨拶のため車の運転中でしたが、勤務先の病院より、「宮崎の岡田光司先生が昨日亡くなられたとのFAXが届いています」と携帯に電話があった。あまりの突然の知らせで呆然とし、近くのコンビニの駐車場に停車した。1年ほど前にお会いした時は非常に元気で健康的であったので何かの間違ひではないかと考え、いつも頼りにしている情報通の押川紘一郎先生に電話したところ本当に永眠されたとのことで呆然となった。

### 思い出 その①

岡田先生の思い出は県立延岡病院整形外科より始まる。岡田光司先生と河野雅行先生は二人とも私にとっては兄貴的存在であった。二人とも良く遊び、良く仕事をされていた。時々、岡田先生と河野雅行先生と一緒にアクアラングで北浦、島之浦に潜りにいった。古江から小さい漁船をチャーターして沖に停泊し海に潜った後、私だけが船に上がって一休みしている時に遠くから、島之浦漁業共同組合の漁船が近づいてきて、鉢巻きをした漁師が、メガホンでその船「停船せよ」「停船せよ」と警告され、我々の

船にドーンと船を横付けにしてきた。そのときは岡田先生、河野先生は丁度海に潜水中で船上には私独りしかいなかった。しかも長いモリを右肩に立てかけてしゃがんでいたのだが、鉢巻きをした漁師が我が船に乗り込んできて、ここは漁業権の必要な海域だが、おまえ達は何ぼしよつとか、黒木県知事の「許可」をもらっているのかと怒鳴るような声で質問されたので、私はすかさず「もぐりです」と言いながらモリの先を海面に向けたところ、その漁師は破顔爆笑して今日のところは許してやるが今後は必ず許可を取ってこいといって引き返していった。その直後、岡田先生が海面にあらわれ船に乗り込んで来られたので、今起きた漁師との事を話すと、なるほど「無許可」は「もぐり」だからな一とつぶやきニターとされた。このようにウィットの分る先生であった。

### 思い出 その②

岡田先生に1年ぐらい遅れて私も宮崎医科大学に移動したが、宮崎医大でも私は岡田先生の弟のような存在でよく用事を言いつけられていた。ある時、バレーボールで岡田先生がアキレス腱断裂を受傷されたが、玉井教授（元宮崎医科大学長）が岡田君の手術は僕がしてあげる。神中の皮切（アキレス腱断裂部の陥凹部を直行す



る横皮切で術後癒痕が目立たない皮切)で入るから君たちも良く見ておきなさいといわれ助手をさせて頂いたが、アキレス腱周囲の局麻(この時は岡田先生が腰椎麻酔を拒否されたので局麻となったようだ)の時に、痛みのため顔面蒼白となられたが、執刀者が大先輩の玉井教授であったため必死に我慢されていたのが、ついにプレシヨック状態となり、腹臥位のまま輸液速度を早くするため自分でクレンメを最大限にされていたが、さすがに麻酔科出身だなーと感心した。

その後、尖足位で大腿から足部までギプス固定を受けられ、一般病棟(2階東病棟)に入院されるかと思っていたが(その当時岡田先生が病棟医長)自分よりハビリのほうの部屋に入院する(本当は病室ではないところ)と言って八室の横の部屋に入院された。私が、お見舞いのつもりでジュースを買っていったところ、えらい剣幕で「ジュースなんか飲めるか、川越酒店に行ってビールを買ってこい」と怒鳴られ、私はその日当直医であったが、清武の川越酒店まで走って行ってビールを買ってきて岡田先生に届けたら、やっと、「よし、よし」といわれ開放された。このことは、平和な時代であったなーとほのぼのとしたものを感じる。今時、病棟医長が患者の身分になっている時、病棟でビールを飲んだり、当直医が病院を出て近くの酒屋にビールを買いに走るなどあり得ない。

#### 思い出 その③

宮崎医科大学整形に移動された後は、岡田先生は月見ヶ丘にお住まいになっておられた。岡田先生のご家族はみんな活発で明るい、とても良い雰囲気のご家族であり、お子様達もとても

成績優秀であった。長女の麻里ちゃんは佐賀医大を出て宮崎大学医学部整形で活躍していたし、圭史君と龍哉君は二人とも熊大医学部を卒業しておられる。こんなにも優秀な家族はめったに見たことがありません。やはり、これは、岡田先生が優秀であったことと、奥様が優秀であったためと考えます。

#### 思い出 その④

岡田先生はスポーツ万能であった。元々は熊大医学部のラグビー部出身である。ラグビーといえば宮崎駅前の菊田整形の菊田先生もラグビー部であるが、一般に強面と言うか、怪獣の様な怖さの雰囲気を持っているが、岡田先生は紳士の雰囲気であった。先生は、野球、ソフトボール、バレーボールと何でも器用にこなされていた。ゴルフも一時は熱心であったが、たぶん1日を費やすので家庭サービスが出来なくなるので、後ではあまりゴルフには熱心ではなかったようだ。岡田先生と最後のラウンドは、7から8年前の11月のシーサイドフェニックスでブリジストンのトーナメントの試合後、最終日のホールをそのまま使用しての宮崎医大整形同門会ゴルフコンペであった。アウトの1番はパー5であったが、私は3オンし、下り15ヤードのロングパットを沈めパーディであったが、岡田先生はダブルボギーだったような気がする。これは、岡田先生が家庭を大事と考えておられたためゴルフに熱中できなかつたためだと思います。

最後に、岡田先生は短い人生ではありましたが、とても充実した、密度の高い、幸せな人生をお送りになったようです。天国でのご冥福を心よりお祈りしております。



## 岡田光司先生と 共に走って30年

押川 紘一郎

毎年12月はじめ、決まって小さな宅配便が届きます。岡田先生こだわりの日本酒です。銘柄を確かめ、栓を開けたい気持ちをぐっと押さえ、冷蔵庫の奥深くにしまい込みます。大晦日の鐘を聞きつつ、宮崎神宮へ初詣後、このお酒を取り出します。30年続く私の新年の行事です。今年は残念ながら、この楽しい決まり事をやめなければなりませんでした。

昭和56年6月1日、宮崎医科大学整形外科に入局するとすぐに、岡田先生とチームをくむ事になりました。岡田先生は1年半前に入局されていまして、私には、とてもありがたい先輩でしたが、大宮高校の1年後輩で、私の妹の同級生という事もあり、お互いに遠慮のない付き合いが始まりました。新設大学の熱気と活力に溢れた医局は、木村教授・田島助教授をトップに、7大学の混成部隊で、大学の中でも特に活力のみなぎった集団でした。そのまとめ役とも言う存在が、岡田先生でした。

冷静沈着でものに動じない岡田先生も、酒席では別人に変わります。楽しい酒です。朝の6時から夜中まで外来・病棟・手術と休む間もな

い毎日でしたが、楽しみは、大学前の居酒屋での語りでした。飲み続けても、翌朝仕事を休むことも無く、岡田先生も私も、それだけ若かったのかもしれませんが。

私が赴任して間もなく、整形外科病棟で歯科の入院患者さんが急変しました。当時は歯科の病棟が合同でした。たまたま私が当直で病棟にいましたので、蘇生処置を行ないました。その時、的確な対応とアシストをしてくれた素晴らしい看護師さんがいました。私同様、東京の大病院から転職して来たばかりの看護師さんでした。この時は、将来岡田先生の奥様になる方とは夢にもおもっていませんでしたが、よく考えてみれば、岡田先生と奥様の香澄様とは共通点が沢山有るように思われます。患者さんに対する的確な対応や思いやり、そしてマラソンやアウトドアスポーツ、マリンスポーツ等の共通の趣味が見事に一致しているのですから、お二人が素晴らしい家庭を築かれたのは当たり前な事かもしれません。お二人の出会いの時期に、少しだけ私も参加させていただけたのはとても良い思い出となりました。

岡田先生の仕事と趣味を平行してさりとなすパワーには感心するばかりでしたが、今年は5月に、岡田先生のキャンピングカーで楽しむ予定でした。7月にはシーガイアトライアスロンに、ご夫妻で出場していただくのを楽しみにしていました。昨年  
の年賀状には那覇マラソンの完走写真がプリントされていました。「共

に走り続けられますように念じています。」添えられていた新年の挨拶文です。

岡田先生、今年のお酒は、福島の「飛露喜」でしたね。30年間のランニングを思い出しながら飲ませていただきます。

天国のマラソンコースを走り続けられていることを祈ります。

合掌





## 医局長挨拶

矢野浩明

平成23年度は2名の新入医局員を迎えることができました。色んな面で厳しい状況下、とてもうれしく思います。

昨年度を振り返ってみますと、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還・サッカーワールドカップベスト16・大リーグのイチロー選手の日米通算3500安打、10年連続200安打・鈴木章氏、根岸英一氏のノーベル化学賞受賞・チリ鉱山救出・伊達直人現象等多くの明るくなる話題もたくさんありました。しかし、アイスランドでの噴火・猛暑・ゲリラ豪雨・尖閣諸島沖、中国漁船の衝突事件・中東・北アフリカの反政府デモなど厳しい出来事の方が多かった気がします。とくにわが宮崎県では、口蹄疫・鳥インフルエンザ・新燃岳噴火と『なぜ、宮崎ばかり自然災害が・・・』と思うような災害が連発しておりました。そんな中、東日本におきましては想像の域を遙かに超える甚大かつ広範囲に及ぶ大震災が、発生いたしました。この場をお借りしまして、犠牲になられた方々のご冥福を祈りますと共に、被災されました皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。

さて、昨年度の教室の行事としましては、学術面におきましては例年通り第60回、61回宮崎整形外科懇話会、第43回、44回宮崎県

スポーツ医学研究会を開催し、三水会は本年5月には200回を迎える事となり、特別講演を予定しております。また、『整形外科の新しい風』などのテーマを設けて最新の知見が得られる第10回、11回ひむか骨関節脊椎脊髄疾患セミナーも開催しました。

厚生面におきましては、一昨年度が、新型インフルエンザの流行のためやむなく医局旅行を中止しました分、2年ぶりの海外旅行となりました。行き先は台湾で、おいしいものを食べ、兵隊の交代式の見学や千と千尋の神隠しの舞台になった街並みの周遊などを体験することができ、とても貴重で、すてきな体験をすることができました。(約2名ほどおなかに攻撃を食らってしまったようですが・・・)池尻先生はじめ厚生係の担当の先生方、みんなのために企画・手配・現地での対応など本当にお疲れ様でした。

日整会全国野球大会およびサッカー大会は、見事予選を突破して本戦出場することができましたが、目標の優勝までは手が届きませんでした。(今年度は震災の影響で、日整会総会が中止となりました、また来年度の出場権をかけて予選が行われる予定です。何かとご迷惑をおかけするかとは存じますが、皆様のご協力をよろ

しくお願いいたします。)

最後になりましたが、震災後は特に日本人の資質について世界から注目を集めております。被災された方々は、おのおのが大変な状況であるにもかかわらず、「冷静で礼儀正しく、驚くほどけなげに対処している」「日本人は結束力や驚くべき対処能力を見せている」と世界中から賞賛されるような見事な対応を社会全体で成し遂げています。日本人にはそういう素晴らしい資質が根底にはきっとあるのだと思います。

我々にも『人々の絆』『思いやりの心』などについて、問われ、深く考えさせられているような気が致します。現在、日本全体において何かと不安定で、取り巻く環境も厳しい状態にあります。こんな時だからこそ、特に皆で一致団結し、邁進する必要があるかと思えます。

同門の先生方には常々多方面にわたりましてご協力・ご支援いただきありがとうございます。この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第5回宮崎整形外科奨励賞



### 宮崎整形外科医学 奨励賞をいただいて

宮崎県立こども療育センター

整形外科 川野 彰 裕

このたびは“小児整形外科とボツリヌス療法”で宮崎整形外科医学奨励賞を受賞させていただきました誠にありがとうございます。整形外科医としても、まだまだ未熟ではありますが、縁あって小児整形外科の仕事をさせていただく機会に恵まれました。

平成8年に消化器外科と迷ったあげく、整形外科教室に入局させていただきました。入局後は、骨折などの外傷、リウマチ、人工関節置換、救急、麻酔などの研修や仕事をさせていただきました。整形外科専門医取得後の平成15年に県立日南病院へ赴任を命じられました。県南地区の基幹病院のため、交通事故などの重篤な患者や高齢者の骨折、感染から骨粗鬆症までと幅広い疾患を治療しなければならない中で、股関節外科と小児整形外科を長鶴義隆先生に御指導していただきました。大変忙しく厳しい環境ではありましたが、先天性股関節脱臼、白蓋形成不全、先天性内反足、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、Blount病などの下肢アライメント異常、骨系統疾患などの小児疾患を診察、診断、治療、手術と数多くの症例を経験しました。特に先天性股関節脱臼はR B治療、OHT法の治療に携わり、その後の遺残性亜脱臼に対する骨盤骨切り術、大腿骨骨切り術も数多く経験いたしました。

そんな日南病院6年間で小児整形外科を専門の一つとして頑張っていこうと考えるようになり、平成21年よりこども療育センターに勤務、柳園賜一郎先生のご指導を受けています。最近新潟市の医療センターで股関節脱臼に対するエコー研修や、広範囲展開法で有名な岡山大学に手術の勉強に行ったりしました。また、股関節鏡も昭和大学に見学に行き、スキルアップにつなげております。

こども療育センターではさらに脳性麻痺、二分脊椎などの障がい児に対する整形外科的治療も携わるようになりました。脳性麻痺などの痙縮の治療としてボツリヌス毒素（以下BoNT）療法が近年行われるようになってきました。BoNT療法は神経筋接合部を遮断する化学的脱神経作用によって、投与された筋肉のみを選択的に弛緩させることができます。特に、下肢への投与は平成21年に保険適応となったため、柳園先生より下肢へのBoNT療法を任せていただきました。BoNT療法はこれまで28例の下肢痙縮の患者に治療を行い、特に歩行可能な患者には三次元歩行分析を行い治療評価しています。日本ではBoNT療法を三次元歩行分析で評価している施設は少なく、平成22年度は当センターでの結果を学会、研究会などで報告いた

しました。(福岡、東京、金沢、名古屋、徳島、鹿児島などで発表報告。“全国制覇するまで発表させる！”と柳園所長談・・・)自分では結構頑張った1年でした。今後はBoNT療法VS手術療法、BoNT複数回投与の成績などの検討を行っていきたいと考えています。

最後になりましたが、同門会、教室の先生方はもちろんですが、小児整形外科について一からご指導していただきました長鶴義隆先生、いつもご指導ご支援をいただいている帖佐悦男教授、渡邊信二先生、現在、こども療育センターでお世話になっている柳園賜一郎先生にこの場をかりまして深く感謝いたします。



## 第5回宮崎整形外科 医学奨励賞を受賞して

河原 勝 博

この度は名誉ある宮崎整形外科医学奨励賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます

今回の受賞は私のこれまで研究や学会発表に対して頂いたものと思います。

私は平成2年に宮崎医科大学のユニーク入試1期生として入学しました。(拾っていただいた方が正確かもしれませんが) 中学高校とソフトテニスをしていましたが足関節捻挫に悩まされながらプレーをしていました。大学入学後も何度か捻挫を繰り返してプレーも困難となっていました。2年生の時に伊勢先生にご相談し、この年の西医体終了後に黒木俊政先生、植村先生、寺本先生とともに足関節靭帯再建術をして頂きました。ちなみに術前のTalar tiltは30度だったようです。おかげさまで術後の制動性は良好で現在まで捻挫もない生活を送っております。この頃から整形外科になると心に決めており、平成8年に宮崎医科大学整形外科の門を叩きました。その後関連病院で研修し、平成16年5月から大学のスポーツ・上肢班でスポーツ患者の診療をはじめ、メディカルチェックやスポーツイベントの帯同などを行って参りました。

平成18年からは大学院に入学し研究を始めました。テーマはACL損傷膝と関節弛緩性(反張膝)の動作分析としました。このきっかけは

一人の患者さんとの出会いでした。その患者さんは仕事にACL損傷され、私が主治医となり再建術を行ったのですが再建後に明らかな外傷なく痛みが生じました。その後5年近く悩みながら治療に当たりました。この患者さんは高度の関節弛緩性を伴っており、その治療の過程で関節弛緩性が外傷や外傷後の関節運動に何らかの影響があるのではないかと疑問を持ちました。これが後の私の研究テーマの源となりました。

これまで関節弛緩性が高度の場合にはACL損傷のリスクが高いとの報告がありました。そこで私はACL損傷以外のリスクを調査する目的で、大学でのメディカルチェックの診察結果から関節弛緩性と障害・外傷について関係性を調べました。結果は関節弛緩性と障害・外傷について明らかな関連性は認めませんでした。下肢のタイトネスと障害の発生率に関連性が認められました。この結果を日本臨床スポーツ医学会で報告し、その後この論文で2010年の日本臨床スポーツ医学会の論文賞を頂くことが出来ました。

動作分析では平成19年に帖佐教授が推進されておられるスポーツメディカルランド宮崎構想の一環で、新しい3次元動作分析システムが



導入され精度の高い動作を測定出来るようになりました。これまでACL損傷膝には特徴的な歩行が報告されています。私もACL損傷患者を関節弛緩性（反張膝）の有無で分けて、歩行やジョギングなどの動作の変化について観察しました。研究当初は臨床をしながら一人で測定をしていましたが、平成20年秋から技能補佐員の堀田さんが来られて測定ならびに解析能力が向上しました。またポリクリの学生や職員の方々の協力を頂いて幅広い年代のコントロールデータも取っていきました。結果はコントロールでは反張膝の有無で歩行パターンの変化はありませんでしたが、ACL損傷後の歩行では立脚期に反張膝がない場合は膝を伸展傾向、反張膝がある場合は屈曲傾向にする異なる歩行パターンを示すことが明らかになりました。またジョ

ギングやジャンプ動作でも同様な傾向でした。これらの結果を様々な学会で発表し、論文投稿を行い内容のブラッシュアップを行い、平成22年秋に英語論文を完成し現在投稿中です。

最後に自分の臨床経験の中からこのような研究をさせて頂いた帖佐教授、ACL再建等について指導して頂いた山本先生をはじめスポーツ上肢グループ先生方、論文指導ならびにこの奨励賞に推薦して頂いた関本先生、いろいろ辛い時にアイスカッチャンを食べながら慰めてくれた同級生の石田先生、また研究データのサポートして頂いた堀田さん、濱野氏、塩崎氏、山元氏、高塚さん、その他多くの関係各位に感謝申し上げます。今後はこの経験を微力ながら教室の発展のために還元したいと思いますのでよろしくお願いいたします。



## H 22 年度医局旅行の報告

厚生係 池 尻 洋 史

近年医局旅行は9月の連休を利用しておりましたが、今年度は西日本整形外科親善野球大会が9月に開催されたため2月の連休を利用することになりました。北海道の雪まつり等も候補に挙がりましたが、乗り継ぎのために日程的に過密になることや連休中は料金がかかなり割高になることから、宮崎からの直行便がある台湾へ行くことになりました。

昨年度は新型インフルエンザの流行で沖縄への医局旅行が中止になり、今年度は新燃岳の噴火による火山灰で宮崎空港の閉

鎖と、2年連続で中止かと心配しておりましたが、無事出発することができました。

2月10日(木)の出発当日は手術は控えめにし、午前中にカンファ午後には雑用などを済ませ、総勢25名が宮崎空港に集合。18:15発のChina air linesで台湾へ出発しました。機内は金・土・日の3連休のため満席状態でした。

(ちなみに航空会社が20席ほどダブルブッキ

ングしていたようで、出発2週間ほど前になって午前便の中部国際空港経由に変更できないかという酷いリクエストがありましたが丁重にお断りしました。)約2時間半の空の旅は機内食もあり、入国登記表の記入やガイド本を読んでいるとあっという間でした。台湾時間19:40

に到着し(日本との時差は1時間)、ホテルに

到着すると21:00を過ぎていましたが、皆さん早速ホテル近くの台湾料理店や夜市など夜の街へ出掛けた様でした。

2日目は台北市内の主な観光

地巡りとショッピングでした。観光地としては、車窓から総統府を見学した後、中正記念堂・保安宮・孔子廟・忠烈祠・故宮博物館を観光しました。中正記念堂・忠烈祠では衛兵の交代式を見学し、衛兵の訓練された一糸乱れぬ機械仕掛けのような動きに感動しました。故宮博物館は紫禁城から運ばれた中国王朝のコレクションなど1日では見切れないほどの数々の芸術品が展



示してありました。ショッピングでは、TVショッピングさながらのデモンストレーション付きお茶セミナーで皆さん大量のお茶を購入し、足つぼマッサージは私の居た男性メンバーのみの部屋では手加減無しで悶絶し、免税店では猪俣先生が持って帰るのに苦労しそうな大きな茶器セットを購入、士林夜市では各々物珍しい屋台の食べ物に挑戦しておりました。ただ臭豆腐の臭いだけはとても耐えきれず屋台に近づくことも出来ませんでした。食事は昼食に「梅子」レストランで台湾料理、夕食は「県泰豊」で点心料理を頂きました。県泰豊はかなりの人気店で、お店の前は順番待ちの客で溢れ却っていました。ここの名物の小籠包は、刻み生姜を添えて黒酢をかけて頂くのですが大変美味しかったです。



3日目は台北から離れ、九份・淡水・北投の3地区を観光しました。九份は宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」のモデルとなったレトロな雰囲気をもつ観光地です。ここで土産店巡りと昼食の後、濱田先生と宮元先生が食中か感染性腸炎による体調不良でリタイアしてしまいました。淡水は港の観光地で、魚のすり身の団子入りスープを頂きました。北投は温泉街で湯之元を見学し散策しました。台湾最後の晚餐はガイドさんを交えて台湾式バーベキューとバイキングを堪能

しました。このバーベキューはバイキングで自分で取った肉や野菜を厨房に渡して焼いてもらうのですが、大きな鉄板で何人分も次々と焼き、焼けたら次々とカウンターに置いていくため、自分の食材がどこで焼かれているかをしっかりと見張っていなければなりません（笑）。

2・3日目の夜は飲みに出かけたり、送迎付きの大規模マッサージ店に出かけたり各々楽しい時間を過ごされたようでした。

4日目最終日は台北市内の土産店に寄り、空港では免税店で最後の買い物を楽しんだ後、13:10台北発の飛行機にて帰宮しました。4日間を通じてガイドをして頂いた許雲来さんは戦前の日本統治下での日本人の功績を繰り返して語られ、台湾の親日ぶりが感じられました。そして、私たちが医療関係者の団体であるのにホテルが安宿すぎることと、帖佐教授の振る舞いが全く偉そうでないことをしきりに不思議がっていたことが印象的でした。皆さん日頃の疲れから解放され、日の高いうちから美味しいお酒や料理を堪能し、観光にショッピングと、大いに楽しんで頂けたのではないかと思います。今回、大きなトラブルもなく無事に医局旅行を終えることができましたのも参加者全員の御協力のおかげと感謝致しております。以上で医局旅行の報告とさせていただきます。





## 日整会親善野球大会報告

～4年間キャプテンを努めて～

安藤 徹

1回戦 宮崎大 — 東京女子医大

14 対 1

2回戦 宮崎大 — 琉球大

9 対 0

準決勝 宮崎大 — 奈良医大

2 対 3

今年こそは何としても優勝を！と意気込んで臨んだ今大会、4回目の挑戦でも優勝することはできませんでした。キャプテン1年目は2回戦で東京大学に屈辱の負け、2年目は準決勝で涙のじゃんけん負け、3年目は決勝で悔やんでも悔やみきれない1点差負け、今年にかける思いは誰にも負けないものがあると自分で実感していました。自分が整形外科教室に入局して以来15年間、夏の西日本親善野球大会で決勝まで進めず全国大会に出場できなかったのはたった2回、例年常に安定した成績を残し全国大会

でも2度優勝する強豪チームに成長しました。しかし、近年は若手を中心とした他の強豪チームの台頭により年々勝つことの難しさを実感、我がチームの平均年齢もおおよそ40歳と高齢化、体力的にもなかなか思うような結果が残せなくなってきています。今後新たな戦力が入らない限りはこのような状況は一層進むであろうと感じています。

今回の野球大会をもって4年間勤めてきましたキャプテンを石田先生にバトンタッチしました。4年前に関本先生より全国大会2連覇後新しいキャプテンを引き継ぎ今大会までは皆さんが期待する結果は残せませんでした。最低限の結果が残せたのではないかと思います。これからは、自分の経験を生かして石田キャプテンを盛り上げ、かつての強い宮崎大学が復活できるように一選手としてサポートしたいと思います。これまでいろいろご支援いただきました同門の先生方本当にありがとうございました。



## 西日本整形外科 野球大会を終えて

石田 康行

今大会よりキャプテンとなりました。石田です。だんだんとプレーで貢献できなくなり少しでもチームの為になればと引き受けさせていただきました。さて、我が野球部はお陰様でここ数年、西日本野球大会で2位までに入り、全国大会（日整会）に出場するのが最低条件といわれる状態となっています。歴代のキャプテン、選手が栄光の歴史を積み重ねており、プレッシャーを感じながら今大会に望みました。

前日の抽選会では、自分らしさと言いましょか厳しい組み合わせを引いてしまいました。不戦勝なしで二回戦では毎年、接戦で勝利している福岡大学。準決勝では前年決勝で対戦した琉球大学。4試合目で決勝という具合です。内心はやってしまったと思いつながら、選手には1試合1試合大事に頑張りましょうと突っ張っていました。

1回戦は産業医大でした。若い選手が多くシートノックの動きは我々より数段いい印象を受けました。しかし、これはいつものことで本番では大丈夫という自信が今の我々にはあるようです。医局長矢野先生の先発で後攻でした。次の試合ことばかり考え、初戦を取りこぼした経験があり、立ち上がりが大切と考えていました。初回矢野先生が三者凡退に抑え、攻撃では連打

で2点先取しました。いい流れになり10-0の4回コールドで勝利しました。矢野先生の完封で他の投手を温存できたのがありがたかったです。2回戦は福岡大学です。好投手がいるチームなのですがここ数年、我々が接戦で勝利し、相手にとって我々は大きな障害となっているようです。福大キャプテンの今年こそはという気迫が挨拶の際、ひしひしと伝わってきていました。長澤先生先発で後攻でした。初回の守備では1アウトランナー2塁のピンチを背負いながら0点におさえてくれました。攻撃では今大会、爆発的な大当たりの切込隊長安藤先生がヒットで出塁し、盗塁、そしてクリーンアップが返すという理想的なパターンで3点先取しました。その後はよく辛抱し3-0で勝利しました。

いよいよ全国の切符がかかった準決勝、前年決勝で敗れた琉球大学戦です。このために温存していた松岡先生先発で後攻でした。初回、安藤先生のヒット、盗塁、長澤先生の送りバントのあと三橋先生のタイムリーで1点先取しました。強打琉球大学を相手に粘りの投球をしていた松岡先生でしたが3回に2点取られ1-2で逆転されました。しかし、その裏安藤、三橋、小蘭の3本の2塁打で3-2と再逆転し、長澤先生の2試合目りりーフ登板もあり勝利しま

した。

決勝戦は久留米大学でした。伝統的に力がある九州大学を準決勝で破った最近、強くなってきたチームです。ここまで来ると全国の切符も手に入れほっとした試合をしがちで、ここ数年、準優勝が続いていました。マネージャーの崎濱先生の“最近、優勝してないですよ。優勝したいな。”の言葉もあり、勝ちにこだわりたいと思いました。4試合目ともなると高齢化が進んだ我がチームは疲労も蓄積され、相手の若さに4回表を終了した時点で1-6と5点差をつけられました。しかし、諦めてはいません。4回裏ユニホームを着るとオーラが出る松元先生の2塁打を皮切りに、若大将川野先生、安藤先生、三橋先生へヒットが続き6-6と追いつき

ました。5回表、相手の連打で1点とられ6-7と逆転され、かつ1アウト2塁のピンチです。ここでの踏ん張りが次の回につながるのをみんなわかっています。途中交代した本日2試合目の松岡投手を中心にみんなで踏ん張りました。5回裏、相手投手の自滅、福嶋先生のタイムリーがあり11-7と再逆転。最終回、本日3試合目の長澤投手が三者凡退に抑え優勝しました。

今回は準決勝、決勝と逆転で勝利しました。高齢化が進み、体力の衰えが感じられる反面、試合経験が豊富になり、試合の流れを考えたプレーや声かけができるチームになっています。試合に出た選手、ベンチでチームのために声かけしてくれた選手みんなで勝ち取った優勝でした。これからもチーム一丸となって頑張っていきたいです。



## 第83回日本整形外科学会 サッカー大会

宮崎市郡医師会病院

森 治 樹

一昨年より日本整形外科サッカー大会で宮崎  
大学整形外科医局のキャプテンを山本恵太郎先  
生より引き継ぎ務めています。昨年開かれた第  
83回日本整形外科学会サッカー大会に予選を  
勝ち抜き3年連続で出場しました。場所は埼玉  
スタジアム隣接の練習グラウンドで天然芝でとて  
も素晴らしいグラウンドでした。学会は東京でし  
たので朝4時半ごろホテルを出発し会場に向か  
いました。初戦の相手は主管校の東京医科歯科  
大でした。その前年は1回戦は突破していたの  
で今年はその上を目指していました。相手は主  
管校で予選を戦っていないこともあり、今まで  
本戦で対戦したチームのなかでも強さを感じま  
せませんでした。試合を通じて我々がゲームを支配  
していましたが、なかなか得点できないどころ  
かシュートもままならない状況でした。対して  
東京医科歯科大はこちらのミスからたびたび逆  
襲で攻撃をしかけてきましたが、前半は全く点  
も入れられる感じはしませんでした。しかし、  
サッカーは点取りスポーツで優勢勝ちはなく、  
よく言われるように優勢のチームが負けること  
の多いスポーツです。後半に入るとますます点  
を取れる気配が薄れてきました。ここで大会の  
ローカルルールを説明しておきますと、11人  
制ではなく8人制のサッカーでコートも通常の

半分です。20分ハーフの試合で8人中40歳以  
上が1人、30歳以上が4人が常時出場しなけ  
ればならず、交代は自由です。我々のチームは  
スタメンに40歳以上が半分以上を占め、ベン  
チ入りメンバーを含め12人しかいませんでした。  
地方大学チームは大方どこもこんな感じで、  
東京の大学や九州大学などのような旧帝大のチ  
ームなどは人数も多く、若手も多くいます。その  
ためか後半は徐々に動きも鈍くなり、逆襲から  
1点を取られました。さらに我々は点が取れな  
いあせりからか前のめりとなり最後は2点目取  
られ万事休すとなりました。

野球の方は毎年安定して好成績を残しており  
サッカーもと意気込んではいませんが、何せ運動  
量の多いスポーツで高齢化や入局員の少なさを  
考えると本戦に出れるだけでもすごいことかも  
しれません。サッカーはコンタクトスポーツで  
試合では激しい接触もあり、時には喧嘩のよう  
になる時もあります。しかしこれは親善試合で  
あり、怪我なく楽しくサッカーをやるにはもう  
少しローカルルールを変えていく必要があると  
考えています。最後にこの大会に予選、本戦を  
通じて参加するに当たりご協力ならびにご迷惑  
をおかけしている医局や関連病院の先生方、同  
門の先生方に感謝を申し上げます。



## 平成22年度同門会 ゴルフ大会について

森 田 信 二

平成22年度の同門会ゴルフ大会はH22.12.5に平川先生、川越先生、川野先生幹事のもと宮崎レイクサイドゴルフクラブで行われました。帖佐教授は残念ながら参加されませんでしたが渡辺先生、市原先生をはじめ遠方からも参加され、好天のもと総勢21名が楽しい一日を過ごされていました。個人的にはグロスは83で隠しホールが見事にはまって優勝させていただきました。同僚の大塚先生、川越先生が黙々とゴルフをされるためとてもプレーがしやすかったおかげだと思います。バスグロは池ノP先生が前半38だったのであきらめていましたが屋のAがきいたのか後半たたかれて同点で

私と二人が分ける格好となりました。とても楽しい一日だったことを覚えています。

私ごとですが以前より腰痛に悩まされていて年に1,2回はゴルフをキャンセルしなければならないことがあり、いつまでゴルフができるかわからない状況なので今は一打、一打を大切にゴルフができることに感謝しながら頑張っているところです。最近時々柳P先生にスウィングをみてもらって調子が上がってきています。また、皆さんから心配されている川P先生はスウィング改造中でまだまだ結果が出ませんがもうしばらく温かく見守ってください。それではまた今年の同門会ゴルフ大会を楽しみにしていますのでよろしく願いいたします。





## 同門会テニス大会

尾 田 朋 樹

例年通り11月23日（勤労感謝の日）に第13回同門会テニス大会が開催されました。天候にも恵まれ日焼けを気にしつつもいつもの白熱したゲーム展開です。勝敗は獲得ゲーム数の総数で決まるため、たとえ負けゲームでも最後まであきらめられません。この時ばかりは普段の先輩後輩の「遠慮」は関係なく、時には（あくまでも偶然ですが）ボディーショットまで炸裂します。試合後半になるとほぼ毎回獲得ポイント数が僅差となるため、優勝候補者と組んだゲームでは様々な思いが交錯しビリビリとした雰囲気も楽しめます。毎年11月の正式な大会とは別に5月の連休明けにも「同門会テ

ニス 春の部」と称した親睦のテニス大会を開催します。私事で恐縮なのですが、最近では視力の衰えに老眼が加わりナイターテニスではボールの遠近感が微妙に把握できません。でも太陽光線の下で十分に光が回っている状況ではまさに「景色が違う」「ボールが良く見える」「気持ち良い」です。「研修会やお酒の席で親睦を深める」が苦手なそのあなた！（笑）テニススクール経験者から競技経験者までレベルは問いません。クラブ活動の勧誘みたいですが、是非一度参加してみませんか？勤務医時代を経て開業された先生方も多く、色々な意味で楽しい時間を過ごす事ができますよ。





## 第6回同門会麻雀大会

野崎東病院

弓削孝雄

12月4日同門会の一次会の流れで10時頃から、麻雀“和楽”でありました。

さんざん飲んだ後に、またビール片手にはじめました。

今年は人数が少なく、常連の河野雅行会長、税所先生、山本（恵）先生らも来られず、8人でメンバーは神園豊先生、池ノ上貴先生、江夏剛先生、川野彰裕先生、池尻洋史先生、猪俣尚規先生、田島卓先生に弓削孝雄の8人で開始。

まず、半チャン2回のトータルで上位2名、下位2名を決めて、残りの半チャン1回を上位卓、下位卓に分けて、競いました。

上位卓のメンバーは“剛腕の江夏”、“勢いの卓ちゃん”、“オトボケの池ちゃん”、に“ヨボヨボの弓削”の4人。

途中、いろいろ、満貫のやり取りがありましたが、終盤に私の親のハネ満で卓チャンを撃沈し、私が優勝しました。

賞金13,000+(3回のニギリ)で財布が潤い、あくる日、妻にジョギングウエアーをプレゼントし、朝早くから、汗を流しているようです。

私も宮崎に帰ってきてから、麻雀をする機会が少なく、最近はこの同門会の麻雀だけです。

(年1回)

麻雀歴は古く、中学3年の家庭麻雀からで、かれこれ、50年以上かな？

今後もボケない限り、参加しようと思っています。

少し、余白があるので、現在の私の趣味(?)を紹介します。

まず、登山を50歳から始めて、17年になりますが、いまは月に1~2回近隣の山に、年に1回は遠出(3~4泊)し、北は鳥海山、北アルプス、白山、鳥取の大山、四国の石鎚山、南は屋久島と。

次にランニング。これも50歳からはじめ、59歳ごろまでは年に15回ぐらい大会に出場し、56歳のときはハーフマラソンで1時間35分台で走り、順調でしたが、ほかの運動で膝を痛め、最近は週4回朝8キロぐらいで調整しています。最近は、大会は出場していません。

最後はテニスです。月に1~2回、火曜日の夜、汗を流しています。

今後も健康維持のため、登山、ランニング、テニスをうまくかみ合わせて老後(?)の体力維持に努めて行くつもりです。



## 帖佐杯ゴルフ大会 優勝について

益山松三

平成22年3月3日、めでたい雛祭りの日。日南病院の内視鏡室にて私は左側臥位で胃内視鏡を挿入されていた。強烈な咽頭反射で目には涙がたまっている。

「潰瘍はありませんが、広範な粘膜の炎症を認めますね。胃の動きも低下してますし、ピロリ菌検査も20分キットが30秒で強陽性です。先生ストレスですか？飲みすぎですか？」COOLな外科医師の言葉を聞きながら、私は尊敬する元上司の言葉を思い出していた。(ホンブサン、やっぱり日南は恐ろしいところだったよ。アキちゃんみたいにシャンクは出ないけど、胃をやられちゃった。。。)

そんな感じでめでたく除菌療法を開始しました。ビットサンというとんでもなく苦い薬も1カ月飲みました。冗談で8歳の長女になめさせたら、マジで泣きました。お酒も3週間は辞めました。お陰さまで8週間後の検査でピロリ除菌達成しました。でも1つだけ納得いかないことがありました。

(なぜ胃を壊したか?)自分としては、容赦なく送り込まれる頭部や胸腹部外傷を合併した重症外傷患者への対応にバランスを崩したのだと分析していたのですが、周りは誰も信じてくれません。ゴルフの調子が悪いから?と3人に

言われました。家庭が上手くいってないの?という人もいました。日南に6年もいた川野先生だけが(どや!日南はキビシイやろう。。。)と左眉だけを上げて慰めてくれました。いつも心の中で(ゴルフじゃない。家庭じゃない。ただただ日南の仕事がきついんやあ〜)と叫んでました・・・。

このような状況で第6回帖佐杯に出場しました。第3回大会にダブルペリアで優勝して、ついつい出来心でゴルフ上達の秘訣などを寄稿してしまいました(未熟でした。ご容赦ください)が、固定ハンデキャップ制となり、優勝への意識などは微塵もありませんでした。(何が何でも、ベストスコア獲得のもんね〜)のキラキラしたプレーではなく、胃に負担をかけないように楽しくプレーすることを心がけたら、なんとベストスコアを2打も縮める66が出ました。同伴してくださった、①かつてのオーベンであり、ゴルフはコペンである園田先生、②野球部らしからぬ腰の低さを見せる長澤先生、③無礼な後輩にも寛容な心でお昼を全部奢ってくれた大塚先生には心より感謝申し上げます。毎回幹事の関本先生と早朝オンコールを交代してくださった松岡先生にもお世話になりました。

なぜ、66が出たのか？いまでも分かりませんが、とにかくショットが好調でした。本当に仕事が忙しいのか？と鋭い突っ込みも受けました。くどいようですが、日南は厳しいところで。胃を壊したおかげで？働き者の三橋君は、私の負担を軽くしようとさらに働き者となりました。彼も3年目に突入しましたので、そろそろでしょう。危ない精神状態が第21号の同門会誌のキテレツな文章に反映されていますので、ご再読ください。

話がそれてばかりですが、16ホールにパーオンし、4バージーで迎えた18番ではナントイーグル奪取での66です。上がり5ホールで4つ潜る、いわゆるゾーンに入った状態で表彰式でもフワフワした感じが続いていました。そのため優勝スピーチは、的を得ない独りよがり

のものとなってしまいました。どうぞご容赦ください。以前のプレーと比べてひとつだけ変わった点はパターでしょうか？これまでは安全に行き過ぎて半分以上ショートしてました。折角のラウンドだから、せめてグリーン上だけはアグレッシブに行くことを心がけています。グリーン外では相変わらずOBや池が気になるチキンハートですが。

帖佐杯の後は、66の片鱗も見えないショットの不調が続いており、改めてゴルフの難しさを感じています。山あり谷ありを受け止める達観した心境にはなかなか到達できませんが、仕事と家庭とゴルフのバランスに気をつけながら、コツコツとやっていきたいと思えます。これからもお付き合いのほどよろしく願いいたします。ではでは。



## 開業後の近況報告

ごとう整形外科

後 藤 啓 輔

平成22年10月12日、田島名誉教授、帖佐教授並びに同門の先生方のご理解のもと、宮崎市阿波岐原に開業させていただきました。諸先生方のご指導ご支援を頂き、診療業務以外での悪戦苦闘はありますが、おかげさまで開業後8カ月をすぎ、だいぶ慣れてまいりました。この場を借りてお礼申し上げます、ありがとうございます。

開業して感じたことを少し書かせていただきます。

患者の質が、病院へ来る患者と違います。野崎東病院勤務時、CSM・

CDH・LCS・LDHで、症状軽度のためopeの適応なしと説明すると不審がられたものが、開業してからは、症状重度にてopeの適応ありと説明すると逆に不審がられ翌日から来なくなります。患者自身が自分の病気の程度をきめ、軽いと考えている人がクリニックに来院し、重いと考えている人が、病院に受診するようです。開業したてのやぶ医者と思われるか、患者の思うことと反対のことを納得させるためには、難

しいことを実感させられました。

次に、骨粗鬆症に対し、診断をせずに、内科・外科・産婦人科・泌尿器科などで治療されていたり、リハビリは整形のものと考えていましたが、どういう診断を付けているのかわかりませんが、内科・外科で温熱治療のみならず、頸椎・腰椎けん引もしています。



また、リウマチは、内科でヒアルロン酸の関節内注射もされているところもあり、感染の危険性が心配です。勤務医時代は、このような患者と遭遇する機会がな

く、話には聞いていましたが、数の多さにびっくりしております。しかし、新参開業医でもあり、そのままスルーしておりますが、他科開業医の厳しさを感じた気がします。

とりとめない内容になって申し訳ありません。以上、開業したてで感じたところですが、今後も色々と迷惑をかけることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

## 賛助会員入会ごあいさつ



### 自己紹介

医療法人 隆徳会 鶴田病院

鶴田 明土

今回、宮崎大学医学部整形外科教室同門会に入らせて頂くことになりました西都市の鶴田病院の鶴田です。

昭和60年3月、藤田保健衛生大学を卒業し整形外科に入局し平成2年に西都市に帰って来ました。

本病院は、外科、内科、整形外科、皮膚科があり医師は現在9名おります。整形外科は、2名でお互い協力しながらやっておりますが、たいへん忙しくあと1名から2名、整形外科医がいればもっとすばらしい医療を患者さんに提供できるのではないかと考えております。

今後も地域医療に貢献し、いろいろな先生方にご迷惑のかからないように努力していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

# 賛助会員入会ごあいさつ

## 貴同門会入会へのご挨拶

医療法人友愛会 野尻中央病院

院長 園田定彦

このたびは宮崎大学医学部整形外科同門会に帖佐悦男教授をはじめ、同門の諸先輩・先生方の御高配を頂き、御入会させて頂きました事にこの場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。私は平成5年、藤田保健衛生大学医学部を卒後、同年宮崎大学医学部第一内科に入局し、これまで内科医として腎臓グループとして腎臓・透析を主体に御指導頂き、現在に至ります。

平成12年退局のち地元の野尻町にて特定医療法人友愛会野尻中央病院に勤務し、同法人の園田病院と共に西諸を中心に地域医療に取り組み、前院長の代から創設46年を迎えます。昨年3月、野尻町は小林市に合併いたしましたが、野尻町は整形外科の常勤はなく、かねてより地域住民の願いもあり、整形外科的なアプローチができないものかと常々思っておりました。このたび貴同門会への入会をお許し頂き、これを御縁に一步でも前向きに進めることができると願っております。今後とも御指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## 新入会員自己紹介(正会員)



名 前：李 徳 哲

生年月日：昭和58年10月11日

出身高校：東京朝鮮高校

出身大学：宮崎大学

この度、入局させて頂きました李徳哲と申します。

宮崎大学卒業後、同大学附属病院で2年間初期研修をしました。これから幅広い整形分野の疾患を学んでいきたいと思えます。様々な面で諸先輩方にご迷惑をおかけすると思えますが何卒ご指導のほどよろしくお願い致します。



名 前：山 口 洋一朗

生年月日：昭和59年10月30日

出身高校：青雲高校

出身大学：宮崎大学

長崎生まれの宮崎育ちです。大学時代はボート部に所属し、6年間ボート漬けの生活を送っていました。パソコン関連とサーフィンとサイクリングが趣味です。都合により宮崎に戻るの2年後になりますが、この度は諸先生方の御厚意により宮大整形に入局をさせて頂きました。若輩者ですがよろしく申し上げます。



# 平成23年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 同門会総会 議事報告

平成23年度総会：平成22年12月4日(土) 16:30～17:30 宮崎観光ホテル

## 1. 平成22年度(H21. 10/1～H22. 9/30) 報告

(1) 会員状況(平成22年9月30日現在)

正会員：154名、賛助会員：46名

(2) 会員動向

正会員入会：川野 啓介 先生(平成22年4月1日付)

永井 琢哉 先生(平成22年4月1日付)

宮元 修子 先生(平成22年4月1日付)

賛助会員入会：千代反田 泉 先生(平成21年11月28日付)

千代反田 晋 先生(平成21年11月28日付)

教室人事：ホームページ掲載

結 婚：なし

開 業：前田 和徳 先生(平成21年11月24日)

(3) 事業報告

H21年 10月 8日(木)：第1回役員会(年度始め)「宮崎県医師会館」

11月12日(木)：第2回役員会「宮崎県医師会館」

11月23日(祝)：第12回同門会テニス大会(優勝：弓削 孝雄 先生)

11月28日(土)：第3回役員会・総会・講演会・忘年懇親会「観光ホテル」  
第5回同門会マーじゃん大会(優勝：田島 卓也 先生)

11月29日(日)：第18回同門会ゴルフ大会(優勝：渡辺 雄 先生)

11月 同門会名簿・会則発行

H22年 4月10日(土)：第4回役員会、新入生歓迎会

5月末 第21号同門会誌発行

7月25日(日)：第2回サーフィン大会中止

8月11日(水)：第5回役員会「宮崎県医師会館」

(4) 教室支援(留学、学会など)：

H22年5月 日整会野球大会・サッカー大会

事務委託費・事務人件費

(5) 会計報告

平成21年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

## 2. 平成23年度（H22. 10/1～H23. 9/30）事業計画・予算

- (1) 平成23年度の予算案は総会（H22. 12/4）にて承認された。
- (2) 役員会：第1回役員会（平成22年10月 6日、宮崎県医師会館）  
第2回役員会（平成22年11月 4日、宮崎県医師会館）  
第3回役員会（平成22年12月 4日、宮崎観光ホテル）  
第4回役員会（平成23年 4月 9日、宮崎観光ホテル）  
第5回役員会
- (3) 講演会：H22. 12/4
  - ①講師：黒木浩史先生  
演題：『側弯症診療の実際—正しい理解と適切な対応に向けて—』
  - ②講師：谷口博信先生  
演題：『若き整形外科医へ贈る言葉—守、破、離—』
- (4) 奨励賞：H22. 12/4 第5回受賞発表：
  - ① 川野 彰裕 先生 『小児整形外科とボツリヌス療法』
  - ② 河原 勝博 先生 『ACLと反張膝』

\*授賞式および講演は平成23年4月9日の新人医局委員歓迎会で実施予定
- (5) 親睦行事：H22. 11/23 第13回テニス大会  
H22. 12/ 4 第6回マーじゃん大会  
H22. 12/ 5 第19回ゴルフ大会
- (7) 同門会会則名簿発行：H22. 12月
- (9) 同門会会誌第22号発行（平成23年5月）

\*テーマ「私の分岐点」
- (10) 新入医局員歓迎会（第4回役員会）：H22. 4/9（宮崎観光ホテル）
- (11) 教室支援（留学、学会など）：平成23年度予定なし

## 3. その他

- (1) 平成24年度（H23. 10/1～H24. 9/30）総会開催予定：H23. 12. 3（土）

# 教室同門の研究業績

(2009年1月～12月)

## ◆ 著 書

- 1) 忘れられないスポーツ外傷・障害の事例  
田島直也, 後藤啓輔  
スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応  
1-381  
日本医事新報社, p213, 2009
- 2) 肉ばなれってなに?  
山本恵太郎  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p26-27, 2009
- 3) 骨折にはどんな種類があるの?  
帖佐悦男  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p28-29, 2009
- 4) 骨折は折れてもどうしてくつつくの?  
帖佐悦男  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p30-31, 2009
- 5) 首が痛い  
山本恵太郎  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p 32-33, 2009
- 6) 突き指ってなに?  
山本恵太郎  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p 38-39, 2009
- 7) 痛みをがまんしてスポーツすることは?  
帖佐悦男  
学校の運動器疾患・障害に対する取り組みの手引き  
大日本印刷(株), p 67, 2009

- 8) 「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」報告書(第4版)(共著)  
山本恵太郎, 帖佐悦男  
「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」報告書  
(第4版)(共著)  
「運動器の10年」日本委員会, p 147-170, 2009

## ◆ 原 書

- 1) 変形性膝関節症に対する運動療法とヒアルロン酸の短期臨床効果の検討  
鳥取部光司, 帖佐悦男, 田邊龍樹, 迫田勇一郎, 河原勝博  
運動・物理療法, 20(1):28-32, 2009.1
- 2) 学校における運動器検診モデル事業の成果と課題-宮崎県-(共著)  
山本恵太郎, 帖佐悦男  
臨床スポーツ医学, 26(2):171-181, 2009.2
- 3) 棘窩切痕部ガングリオンに対する肩峰下滑液包からの鏡視下除圧術(共著)  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也  
整形外科, 60(2):155-160, 2009.2
- 4) 当科における中高年女性に対する膝前十字靭帯再建術の治療成績(共著)  
山口志保子, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 田島卓也,  
三橋龍馬, 帖佐悦男  
整形外科と災害外科, 58(2):192-198, 2009.3
- 5) 見過ごされやすいスポーツ傷害-外傷と障害-(共著)  
帖佐悦男  
マルホ整形外科セミナー, 193:24-30, 2009. 3
- 6) 認知症患者の大腿骨転子部骨折に対する術後予後の比較検討-重症度別の比較検討-(共著)  
公文崇詞, 園田典生, 帖佐悦男  
骨折, 31(2):399-401, 2009. 5
- 7) 側彎症診療における腹皮反射の意義(共著)  
黒木浩史, 猪俣尚規, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 花堂祥治, 帖佐悦男  
西日本脊椎研究会誌, 35(1):2-5, 2009. 6
- 8) 宮崎県で開催された高校ラグビー競技会に対する安全度評価(共著)  
吉川大輔, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也  
九州・山口スポーツ医・科学会誌, 21:135-139, 2009. 6

- 9) MX-2000 ステム使用 3 年経過例の検討  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
前田和徳, 中村嘉宏, 船元太郎  
第 17 回 MX 人工股関節研究会記録集, 49-52, 2009.7
- 1 0) 腱板断裂後の棘下筋筋委縮に対する筋電図による検討(共著)  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 崎濱智美  
肩関節, 33(2):463-465, 2009.7
- 1 1) 見過ごされやすいスポーツ傷害-外傷と障害-  
帖佐悦男  
日本整形外科学会雑誌, 83(7):487-495, 2009.8
- 1 2) 上肢における見過ごされやすいスポーツ外傷・障害-画像診断の特徴と  
ピットフォール-(共著)  
矢野浩明, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也,  
山口奈美, 濱智美  
臨床スポーツ医学, 26(8):975-983, 2009.8
- 1 3) 臼蓋形成不全に対する寛骨臼骨切り術の応力解析(共著)  
趙昕, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, 鄧鋼  
臨床バイオメカニクス, 30:203-207, 2009.9
- 1 4) 股関節臼蓋形成不全の応力解析における臼蓋縁形態の影響(共著)  
鳥取部光司, 帖佐悦男, 趙昕, 渡邊信二, 鄧鋼  
臨床バイオメカニクス, 30:203-207, 2009.9
- 1 5) 前十字靭帯再建術前後の歩行分析(共著)  
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二  
臨床バイオメカニクス, 30:203-207, 2009.9
- 1 6) 下肢 股関節の痛み  
帖佐悦男  
ペインクリニック, 30(10):1331-1339, 2009.10
- 1 7) 一般診療でスポーツ傷害(外傷・障害)を見逃さないために  
帖佐悦男  
日本医事新報, 4462:62-68, 2009.10
- 1 8) 学校における運動器検診の実施について(共著)  
山本恵太郎, 帖佐悦男, 稲倉正孝, 佐藤雄一, 中村典生, 高村一志,  
岡田光司, 田島直也  
全国学校保健・学校医大会 大会誌, 40:137-143, 2009.10

- 19) 突発性側弯症に対するぶら下がり単純X線撮影の意義  
黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
脊柱変形, 24(1):94-99, 2009.12
- 20) 橈骨遠位端骨折後の遅発性多数指屈筋腱皮下断裂の1症例  
高見博昭, 麻生邦一  
日本手の外科学会雑誌, 25(5):678-681, 2009

## ◆ 学会報告

- 1) スポーツと健康 ケガなく楽しくスポーツをするには!  
帖佐悦男  
住吉スポーツクラブ スポーツ講演会, 2009,1,宮崎
- 2) 骨線維性異形成(OFD)に対し骨欠損部を $\beta$ -TCPのみで補填した3例  
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎  
第25回九州小児整形外科集談会, 2009,1,福岡
- 3) スポーツ指導者に必要な医学的知識I  
帖佐悦男  
平成20年第2回スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団  
認定員養成講習会, 2009,1,川南町
- 4) RAに対するヒュミラの安全性・有効性・利便性  
後藤啓輔, 井上篤, 田島直也, 岩本秀安, 野崎勝宏  
宮崎エリアヒュミラ適正使用研究会, 2009,1,宮崎
- 5) 関節リウマチの治療と私たちの知見  
帖佐悦男  
第10回福岡南部リウマチ研究会, 2009,2,福岡
- 6) スポーツ診療における診断に際してのピットフォール  
帖佐悦男  
第16回秋田県スポーツ医学研究会, 2009,2,秋田
- 7) RA 頸椎患者の看護ケア  
神尾晃健, 森脇美知代, 立山真寿美, 後藤啓輔, 田島直也  
第17回宮崎リウマチのケア研究会のプログラム, 2009,2,宮崎

- 8) STT関節症に続発した橈側手根屈筋腱皮下断裂の1症例  
高見博昭, 麻生邦一  
第30回九州手の外科研究会, 2009, 2, 熊本
- 9) 手指骨に発生した内軟骨腫に対する腫瘍掻爬・骨移植術の治療経験  
崎濱智美, 矢野浩明, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博,  
田島卓也, 日吉優  
第30回九州手の外科研究会, 2009, 2, 熊本
- 10) Modified Stoppa Approachが有用と思われた白底骨折の2症例  
山口志保子, 野崎正太郎, 池尻洋史, 中村嘉宏, 福田一, 帖佐悦男, 酒井健  
第33回宮崎救急医学会, 2009, 2, 高鍋町
- 11) CANNULOKステムの術後5年成績  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
中村嘉宏  
第39回日本人工関節学会, 2009, 2, 東京
- 12) 肩関節の3次元動作解析-外転と回旋の関係-  
宮崎茂明, 渡辺将成, 日高 隆, 新藤灯子, 屋嘉部愛子, 鳥取部光司,  
帖佐悦男, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 13) 上前腸骨棘裂離骨折に対する観血的治療の経験  
小蘭敬洋, 井上篤, 後藤啓輔, 弓削孝雄, 田島直也, 福島克彦  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 14) ホンダロックサッカー部に対するメディカルサポート  
宮本浩幸, 菅原康史, 尾崎勝博, 田島直也, 小島岳史, 野中隆史, 樋口潤一  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 15) 臨床に役立つ下肢の画像診断-基礎と臨床-  
帖佐悦男  
第8回久留米関節セミナー, 2009, 2, 久留米
- 16) 整形外科領域の腫瘍  
坂本武郎  
宮大がん診療部セミナー, 2009, 2, 清武町
- 17) 小学生柔道選手の上腕骨内上顆障害の2例  
川添浩史, 増田寛  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎

- 18) 「はにわネット」を利用したスポーツメディカルサポート  
帖佐悦男, 荒木早苗, 荒木賢二  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 19) 外傷性膝蓋骨脱臼の1  
船元太郎, 深野木快士, 園田典生, 帖佐悦男  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 20) 前十字靭帯再建術前後の歩行分析  
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 21) 陳旧性膝複合靭帯損傷例におけるMCL再建法の検討  
日吉優, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行,  
田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美  
第40回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2009, 2, 宮崎
- 22) スポーツ診療における診断に際してのピットフォール  
帖佐悦男  
第21回埼玉・県南東部整形外科勉強会, 2009, 3, 越谷
- 23) 北京パラリンピックにおけるメディカルサポートの経験  
鳥取部光司  
第25回宮崎県臨床整形外科医会学術講演会, 2009, 3, 宮崎
- 24) 鏡視下腱板修復術後における理学療法を検討-肩甲骨の固定化機能に着目して-  
屋嘉部愛子, 宮崎茂明, 渡辺将成, 日高隆, 新藤灯子, 石田康行,  
帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗  
第31回宮崎リハビリテーション研究会, 2009, 3, 宮崎
- 25) 当院における高次脳機能障害の現状  
黒木美妃, 帖佐悦男, 鳥取部光司  
第31回宮崎リハビリテーション研究会, 2009, 3, 宮崎
- 26) 乾癬性関節炎経過中にRAを合併した1例  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎  
第37回九州リウマチ学会, 2009, 3, 長崎
- 27) ぶら下がり全脊椎単純X線撮影による側弯症装具矯正能の評価  
黒木浩史, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
第38回日本脊椎脊髄病学会, 2009, 4, 神戸



- 28) 骨移植型HAスパーサーを用いた棘突起縦割式脊柱管拡大術  
久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 帖佐悦男, 猪俣尚規,  
海田博志  
第38回日本脊椎脊髓病学会, 2009, 4, 神戸
- 29) 橈骨遠位端骨折後に生じた遠位橈尺関節障害の治療経験  
崎濱智美, 矢野浩明, 帖佐悦男  
第52回日本手の外科学会学術集会, 2009, 4, 東京
- 30) 培養リウマチ滑膜細胞におけるPAMPの発現および作用  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 関本朝久, 坂本武郎, 税所幸一郎  
第53回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第18回国際リウマチ  
シンポジウム, 2009, 4, 東京
- 31) 学校における運動器検診の実施—第2報—  
山本恵太郎, 帖佐悦男, 矢野浩明, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也,  
小松奈美, 崎濱智美, 田島直也  
第82回日本整形外科学会学術総会, 2009, 5, 福岡
- 32) 腰部・骨盤部の傷害(外傷・障害)  
帖佐悦男, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 黒木浩史, 山本恵太郎, 園田典生,  
後藤啓輔, 樋口潤一, 川添浩史, 田島卓也, 河原勝博  
第82回日本整形外科学会学術総会, 2009, 5, 福岡
- 33) 股関節症における関節適合性の意義—股関節正面像とfalse profile像の必要性  
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 前田和徳  
第82回日本整形外科学会学術総会, 2009, 5, 福岡
- 34) 当院における腰椎後方椎体間固定術(PLIF)後骨癒合不良因子の検討  
福島克彦, 後藤啓輔, 井上 篤, 田島直也, 久保紳一郎  
第117回西日本整形・災害外科学会, 2009, 5, 久留米
- 35) 臼蓋骨嚢胞がある症例に対するPeriacetabular osteotomyの治療成績  
日吉優, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 池尻洋史, 中村嘉宏  
第117回西日本整形・災害外科学会, 2009, 5, 久留米
- 36) 環椎外側塊スクリー法の安全性評価  
久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 海田博志,  
深尾悠, 梅崎哲矢, 帖佐悦男  
第117回西日本整形・災害外科学会, 2009, 5, 久留米

- 37) 当科における脊椎手術後感染症例の検討  
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 猪俣尚規, 海田博志,  
梅崎哲矢, 深尾 悠, 帖佐悦男  
第 117 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 5, 久留米
- 38) 当科における膝複合靭帯損傷例に対する PCL 再建術  
深尾 悠, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美,  
崎濱智美, 山口志保子, 帖佐悦男  
第 117 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 5, 久留米
- 39) 棘窩切痕部ガングリオンに対する肩峰下滑液包からの鏡視下除圧術  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,  
山口奈美, 崎濱智美, 日吉 優  
第 1 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2009, 5, 札幌
- 40) アテトーゼ型脳性麻痺患者に対する膝前十字靭帯再建術の経験  
田島卓也, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 矢野浩明, 渡邊信二, 河原勝博,  
石田康行, 山口奈美, 崎濱智美, 日吉 優  
第 1 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2009, 5, 札幌
- 41) 肩関節過外転で生じた Bony PASTA lesion の一例  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,  
山口奈美, 崎濱智美, 日吉 優  
第 1 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2009, 5, 札幌
- 42) 平滑筋肉腫の 2 例  
坂本武郎  
第 30 回西日本骨軟部腫瘍懇話会, 2009, 6, 久留米
- 43) 前十字靭帯損傷膝に対する歩行分析-反張膝の有無による違い-  
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 山本恵太郎  
第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009, 6, 静岡
- 44) ステム再置換時の骨移植例の検討  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
池尻洋史, 中村嘉宏  
第 18 回 MX 人工股関節研究会, 2009, 7, 東京
- 45) 鏡視下腱板修復術後における理学療法の効果  
宮崎茂明, 石田康行, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 日高 隆,  
新藤灯子, 渡辺将成, 屋加部愛子  
第 21 回運動器リハビリテーション学会, 2009, 7, 東京

- 46) 前十字靭帯損傷患者のジョギングにおける動作分析-関節弛緩性の有無での比較-  
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 山本恵太郎, 田島卓也, 宮崎茂明  
第 21 回運動器リハビリテーション学会, 2009, 7, 東京
- 47) 抗凝固薬・抗血小板薬内服患者の大腿骨転子部骨折に対する早期手術療法  
小島岳史, 森 治樹, 福元洋一, 柏木輝行, 帖佐悦男  
第 35 回日本骨折治療学会, 2009, 7, 横浜
- 48) 筋皮弁を用いた褥創手術の小経験  
黒沢 治, 三股恒夫  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 49) 骨髄炎に対し抗生物質含浸ハイドロキシアパタイトを用いた治療経験  
樋口誠二, 安藤 徹  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 50) 学校における運動器検診の実施について「運動器の 10 年」事業報告  
山本恵太郎, 山口奈美, 福嶋麻里, 山口志保子, 帖佐悦男, 田島直也,  
岡田光司  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 51) Damage Control Orthopaedics の概念に基づいた多発外傷患者への治療戦略  
中村嘉宏, 帖佐悦男, 野崎正太郎  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 52) TKA 手術手技の習得と指導  
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 小島岳史, 帖佐悦男  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 53) 大腿骨内顆骨折の 2 例の治療経験  
福元洋一, 森 治樹, 小牧 亘  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 54) 外傷性アキレス腱断裂後、2度再断裂した 1 例  
塩月康弘, 小蘭敬洋, 勝冨葉子  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 55) 二分脊椎による麻痺性踵足に対する前脛骨筋後方移行術の経験—歩行分析による評価—  
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝冨葉子  
第 58 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎

- 56) Crowned dens syndrome の7例  
河野勇泰喜, 浪平辰州, 上通一師  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 57) 当科で観血的治療を施行した膝周辺の骨折について  
公文崇詞, 桐谷 力, 酒井 健, 池尻洋史, 海田博志  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 58) 前十字靭帯付着部裂離骨折の3症例  
山口奈美, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也,  
崎濱智美, 深尾悠, 山口志保子, 帖佐悦男  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 59) 骨欠損を伴う開放骨折に対し一期的に自家骨移植を行った1例  
増田 寛, 川添浩史  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 60) 大腿骨顆上骨折に対するロッキングプレートの使用経験  
三橋龍馬, 松岡知己, 益山松三  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 61) 当院における大腿骨顆上骨折に対する治療経験—髓内釘とロッキングプレートの比較—  
栗原典近, 河野 立, 市原久史, 甲斐糸乃, 菅田 耕, 村上 弘  
第58回宮崎整形外科懇話会, 2009, 7, 宮崎
- 62) 宮崎県高校女子バスケットボール選手におけるメディカルチェック  
—3年間の調査結果と問題点—  
山口奈美, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也, 帖佐悦男, 田島直也  
第35回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2009, 9, 前橋
- 63) 早期RAと診断した第5MTP関節炎の1例  
濱田浩朗 帖佐悦男, 税所幸一郎  
第38回九州リウマチ学会, 2009, 9, 久留米
- 64) 当院における関節リウマチの治療経験  
—MTXとタクロリムス使用79症例(H18年1月からH21年6月)における3郡比較  
高見博昭  
第21回延岡医学会総会, 2009, 10, 延岡
- 65) 肩甲下筋負荷テストと鏡視所見の検討  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 崎濱智美  
第36回日本肩関節学会, 2009, 10, 山形

- 6 6) femoroacetabular impingement の診断・治療  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
池尻洋史, 中村嘉宏  
第 36 回日本股関節学会学術集会, 2009, 10, 京都
- 6 7) 白蓋形成不全症の CNV 解析  
関本朝久, 帖佐悦男, 船元太朗, 濱田浩朗, 坂本武郎, 渡邊信二,  
野崎正太郎, 池尻洋史, 中村嘉宏, 福田 一  
第 36 回日本股関節学会学術集会, 2009, 10, 京都
- 6 8) 股関節正面像と false profil 像における関節適合性の意義について  
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 池尻洋史, 福田 一  
第 36 回日本股関節学会学術集会, 2009, 10, 京都
- 6 9) 当科における CANNULOK と MX-2000 の使用経験  
池尻洋史, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 中村嘉宏, 福田 一  
第 36 回日本股関節学会学術集会, 2009, 10, 京都
- 7 0) 反張膝に対する歩行分析-正常および前十字靭帯損傷膝の検討-  
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二  
第 36 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2009, 10, 松山
- 7 1) 白蓋形成不全に対する寛骨臼骨切り術における回転角度の力学的検討  
Xio Zhao, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, Gang Deng  
第 36 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2009, 10, 松山
- 7 2) 有限要素法を用いた人工股関節置換術におけるロングステムの固定性の検討  
鳥取部光司, 帖佐悦男, Xin Zhao, 渡邊信二, Gang Deng  
第 36 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2009, 10, 松山
- 7 3) Essex-Lopresti 脱臼骨折の一例  
吉川教恵, 矢野浩明, 柏木輝行, 小島岳史, 矢野良英, 帖佐悦男  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎
- 7 4) 皮切にこだわらない MIS 人工股関節置換術  
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 池尻洋史, 福田 一, 日吉 優, 長澤 誠  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎

- 75) 脊椎手術を施行した透析患者症例の検討  
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 猪俣尚規, 黒木修司,  
比嘉 聖, 河野雅充, 帖佐悦男  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎
- 76) 大腿筋膜張筋-大殿筋拘縮症に対し鏡視下腸脛靭帯切離術を施行した一例  
長澤 誠, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 中村嘉宏, 福田 一, 日吉 優  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎
- 77) 当科における超高齢者の頸椎手術の術後成績  
黒木修司, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭,  
猪俣尚規, 比嘉 聖, 野雅充  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎
- 78) 変形性肘関節症に対する鏡視下手術の治療経験  
崎濱智美, 石田康行, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,  
山口奈美, 深尾 悠, 帖佐悦男  
第 118 回西日本整形・災害外科学会, 2009, 11, 長崎
- 79) ダウン症候群に起因した環軸椎不安定症小児例に対する後頭軸椎後方固定術の経験  
—laminar screw 法の応用—  
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 花堂祥治, 帖佐悦男  
第 18 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2009, 11, 東京
- 80) 北京パラリンピックにおけるメディカルサポート  
鳥取部光司, 上野友之, 藤原清香, 陶山哲夫, 田島文博, 草野修輔,  
和田野安良, 帖佐悦男  
第 20 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2009, 11, 神戸
- 81) 宮崎県におけるラグビー競技会に対する安全度評価:7年間の結果  
田島卓也, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行,  
中村嘉宏, 吉川大輔, 吉川教恵, 山口奈美, 崎濱智美, 福田 一, 比嘉 聖  
第 20 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2009, 11, 神戸
- 82) 関節血症が関節軟骨変性に及ぼす影響  
田島卓也, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 山口奈美,  
崎濱智美, 帖佐悦男  
第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2009, 11, 横浜
- 83) 白蓋形成不全の程度を考慮した寛骨臼骨切り術の有限要素法による応力解析  
Xin Zhao, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, Gang Deng  
第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2009, 11, 横浜

- 84) 培養リウマチ滑膜細胞におけるPAMPの発現および分泌  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎  
第37回日本関節病学会, 2009, 11, 横浜
- 85) 学校における運動器検診の実施について  
山本恵太郎, 帖佐悦男, 稲倉正孝, 佐藤雄一, 中村典生, 高村一志,  
岡田光司, 田島直也  
第40回全国学校保健・学校医大会, 2009, 11, 広島
- 86) 突発性側弯症に対する装具矯正能の評価 ―ぶら下がり全脊椎単純X線撮影の応用―  
黒木浩史, 猪俣尚規, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
第43回日本側弯症学会, 2009, 11, 東京
- 87) 当科における中足骨仮骨延長症例の検討  
渡邊信二, 帖佐悦男, 関本朝久  
第20回日本小児整形外科学会学術集会, 2009, 12, 松山
- 88) バレーボールにて膝複合靭帯損傷を受傷し、膝前十字靭帯・内側側副靭帯同時再建を行った1例  
河野雅充, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也,  
山口奈美, 崎濱智美, 深尾 悠, 帖佐悦男  
第22回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2009, 12, 福岡
- 89) 人工膝関節置換術後に patellar clunk syndrome を生じた2例  
梅崎哲矢, 黒田宏, 内田秀穂, 大倉俊之  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 90) TKA手術手技の習得と指導  
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 小島岳史, 帖佐悦男  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 91) 人工膝関節置換術後に生じた膝周辺部脆弱性骨折の2例  
坂田勝美, 税所幸一郎, 吉川大輔  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 92) Modified Stoppa Approachが有用と思われた臼底骨折の2症例  
野崎正太郎, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
前田和徳, 池尻洋史, 中村嘉宏, 福田 一, 山口志保子, 河野雅充, 酒井 健  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 93) 大腿骨転子部骨折の整復時の工夫  
川添浩史, 増田寛  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎

- 9 4) 当科における両側大腿骨近位部骨折症例の特徴  
浪平辰州, 上通一師, 河野勇泰喜  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 9 5) 転子部骨折の基礎的検討  
塩月康弘, 小園敬洋  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 9 6) 頸椎黄色靭帯上嚢腫の1例  
近藤梨紗, 松元征徳, 本部浩一, 村上 弘  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 9 7) ダウン症候群に起因した小児環軸椎不安定症に対し laminar screw 法による  
後頭軸椎後方固定術を施行した2例  
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司,  
比嘉 聖, 長澤 誠, 帖佐悦男, 花堂祥治  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 9 8) 外反扁平足に対する踵骨延長術前後の歩行分析評価  
柳園賜一郎, 勝蔦葉子, 門内一郎, 川野彰裕  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 9 9) 肩甲骨烏口突起骨折を伴った鎖骨両端脱臼の一例  
甲斐糸乃, 栗原典近, 河野 立, 市原久史, 菅田 耕  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 1 0 0) 高齢者上腕骨近位端骨折に対する三角筋縦割進入方によるプレート固定の治療経験  
黒沢 治, 三股恒夫  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 1 0 1) 不安定型肘関節脱臼骨折の治療経験  
福島克彦, 松岡 篤, 本荘憲昭, 達城 大, 渡辺 雄  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 1 0 2) 腓骨神経麻痺を生じた腓骨神経内ガングリオンの1例  
村上 弘, 松元征徳, 本部浩一, 近藤梨紗  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 1 0 3) 転落による胸腹部損傷を伴わず多発四肢骨形をきたした1例  
小牧 亘, 福元洋一, 森 治樹, 山口志保子  
第59 回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎



- 104) Sacral insufficiency fracture の治療経験  
猪俣尚規, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 花堂祥治, 海田博志,  
梅崎哲矢, 深尾 悠, 帖佐悦男  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 105) 四肢多発外傷に腸間膜損傷を合併した1例  
益山松三, 松岡知己, 三橋龍馬, 市成秀樹, 長田直人  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 106) Floating elbow を呈した一例  
深尾 悠, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美,  
崎濱智美, 帖佐悦男  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 107) 当院における骨盤骨折に対する治療経験  
菅田 耕, 栗原典近, 河野 立, 市原久史, 甲斐糸乃, 村上 弘, 比嘉 聖  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 108) 寛骨臼骨折に対する機能的予後の検討  
池尻洋史, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 中村嘉宏, 福田 一, 日吉 優  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 109) 骨盤輪骨折を伴う多発外傷症例の予後に関する検討  
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗,  
野崎正太郎, 池尻洋史, 福田 一, 日吉 優  
第59回宮崎整形外科懇話会, 2009, 12, 宮崎
- 110) 外側型腰椎椎間板ヘルニアの術後成績  
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司,  
比嘉 聖, 帖佐悦男  
第72回西日本脊椎研究会, 2009, 12, 大分
- 111) 二分脊椎による麻痺性踵足に対する前脛骨筋後方移行術の経験—歩行分析による評価—  
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝嵩葉子  
第20回日本小児整形外科学会学術集会, 2009, 12, 愛媛

## ◆ 総 説

- 1) 棘窩切痕部ガングリオンに対する肩峰下滑液包からの鏡視下除圧術(共著)  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也  
Orthopedic Surgery, 60(2):155-160, 2009.2, 南江堂
- 2) 見過ごされやすいスポーツ外傷・障害—画像診断の特徴とピットフォール—  
帖佐悦男  
臨床スポーツ医学, 26(8):1, 2009.8, 文光堂
- 3) 学校における運動器検診モデル事業の成果と課題—宮崎県—  
山本恵太郎, 帖佐悦男  
臨床スポーツ医学, 26(2):171-181, 2009.8, 文光堂

## ◆ 講 演

- 1) 開放骨折の治療について  
帖佐悦男  
第9回MOSS, 2009.4, 宮崎市
- 2) 救急整形外科-外傷初期診療について-  
帖佐悦男  
第9回MOSS, 2009.4, 宮崎市
- 3) 頸椎疾患の臨床—頸椎外科の変遷—  
平川俊一  
第29回宮崎県柔道整復師会研修会, 2009.4, 宮崎
- 4) 整形外科医が見逃してはいけない救急疾患  
帖佐悦男  
第9回MOSS, 2009.4, 宮崎市
- 5) インフリキシマブ効果不十分例の症例報告  
帖佐悦男  
第6回宮崎膠原病リウマチ治療研究会, 2009.4, 宮崎市
- 6) スポーツ指導者に必要な医学的知識I  
帖佐悦男  
平成21年度第1回スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団  
認定員養成講習会, 2009.5, 宮崎市

- 7) 運動器と運動の大切さ 運動器健診のフィードバック  
山本 恵太郎  
学校保健委員会(宮崎市立鏡洲小学校), 2009.6, 宮崎市
- 8) 骨粗鬆症について  
帖佐悦男  
社会講師トレーニング(万有製薬), 2009.6, 宮崎市
- 9) スポーツ診療における診断に際してのピットホール  
帖佐悦男  
第 51 回山陰整形外科集談会, 2009.6, 島根県松江市
- 10) 成長期のサッカー選手に必要なスポーツ医学  
小島岳史  
宮崎県サッカー トップアスリート事業, 2009.6, 宮崎市
- 11) 成長期のスポーツ傷害～運動器と運動の大切さ～  
山本恵太郎  
第 1 回学校保健委員会(宮崎市立宮崎西中学校), 2009.6, 宮崎市
- 12) 股関節疾患の画像診断と治療-最近の話題を含めて-  
帖佐悦男  
和歌山県立医科大学整形外科学教室同門会研修会・  
第 6 回運動機能傷害フォーラムわかやま, 2009.7, 和歌山
- 13) 自分の体のつくりを知り、運動能力を高めよう  
山本恵太郎  
第 1 回学校保健委員会(清武町立清武中学校), 2009.7, 宮崎市
- 14) 食と健康と運動のかかわり-食と運動で生涯にわたって健康でいよう!  
帖佐悦男  
平成 21 年度宮崎大学医学部公開講座, 2009.7, 宮崎市
- 15) 成長期のスポーツ傷害～運動器と運動の大切さ～  
山本恵太郎  
平成 21 年度宮崎西中学校健康教室, 2009.7, 宮崎市
- 16) ミノドロン酸水和物の使用経験について  
渡邊信二  
第 6 回ひむか運動器セミナー, 2009.7, 宮崎市

- 17) 臨床に役立つ下肢の画像診断-基礎と臨床-  
帖佐悦男  
第11回千葉県整形外科病診連携セミナー, 2009.7, 千葉市
- 18) 運動と外傷-過労性スポーツ傷害  
帖佐悦男  
第36回スポーツ医学研修会総論A, 2009.8, 東京都新宿区
- 19) 関節リウマチの外科的治療  
帖佐悦男  
平成21年度鹿児島地区リウマチ教育研修会, 2009.8, 鹿児島市
- 20) 宮崎における医療連携システムの構築  
帖佐悦男  
ひむか運動器セミナー, 2009.8, 宮崎市
- 21) Locomotive Syndrome を予防するためのスポーツ医学的アプローチ-サポートシステムの構築-  
渡邊信二  
第35回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会,  
2009.9, 群馬県前橋市
- 22) 関節リウマチの手術療法・リハビリ・ケア-  
帖佐悦男  
みやにち健康セミナー「正しく知ろう、リウマチ治療の現在」,  
2009.10, 宮崎市
- 23) スポーツ診療における診断に際してのピットホール(見逃しやすいスポーツ外傷・障害)  
帖佐悦男  
第28回整形外科カレントコンセプト, 2009.10, 東京都文京区
- 24) スポーツ診療におけるピットホール  
帖佐悦男  
第42回瑞穂卒後研修セミナー, 2009.10, 名古屋市
- 25) 成長期のサッカー選手に必要なスポーツ医学  
小島岳史  
宮崎県サッカートップアスリート事業, 2009.10, 延岡
- 26) 運動と健康-日常生活におけるケガの予防と手当の仕方-  
帖佐悦男  
小林元気クラブ「健康講座」, 2009.11, 宮崎県小林市

27) 関節症にまつわる常識について

帖佐悦男

第37回日本関節病学会共催セミナー, 2009.11, 横浜市

# 編集後記



岡田光司先生が急逝されました。岡田先生追悼の御寄稿を3人の先生方にいただきました。御冥福をお祈りいたします。

今回のテーマは“私の分岐点”とさせていただきました。御寄稿いただいた先生方の文章を読ませていただきますと、人生には多くの分岐点があり、その選択の成否はその後の努力によって変わると解釈しました。各人で解釈の仕方は違うと思いますが人生の糧となるメッセージが込められています。御寄稿いただいた先生方には感謝いたします。

新入会員紹介として賛助会員、鶴田明士先生、園田定彦先生、正会員、李徳哲先生、山口洋一郎先生に御入会いただき自己紹介を御寄稿していただきました。

その他、奨励賞、同門会・医局行事、新規開業などがあります。皆様には隔々まで目を通していただけると幸いです。

最後に何かと忙しい中、本誌に御寄稿いただいた諸先生方に深謝いたします。

平成23年5月吉日

渡 邊 信 二  
石 田 康 行 (文責)  
川 野 実 夏

宮崎大学医学部整形外科

## 同 門 会 誌

発 行 日 平成23年5月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 渡 邊 信 二

印 刷 所 宮崎県児湯郡新富町大字上富田4726-1  
障害者支援施設 あゆみの里